但雨雪泥濘ノトキハ半股引ヲ用フルモ妨ケナシ

三雨具ハ外套又ハゴム引若クハ桐油製ノモノ

第四章　馭者馬丁就業ノ制限

第廿三條　鑑札及乘合馬車取締規約ヲ所持シ警察官吏又ハ乘客ニ於テ見ンコトヲ求メタルトキハ直ニ之ヲ示スヘシ

第廿四條　頭冠リ鉢卷其他不体裁ノ形裝ヲナスヘカラス

第廿五條　馭者ハ馬車ヲ離ルヘカラス但馭者避クヘカラサル事故アルトキハ馬丁ヲシテ馬車ノ管守ヲナサシムヘシ

第廿六條　老幼及ヒ婦女昇降ノ際ハ懇篤ニ保護ヲナスヘシ

第廿七條　乘客着席シ又ハ降車シ畢リタル後ニアラサレハ車ヲ進行スヘカラス

第廿八條　乘客中粗暴ノ所爲アルトキハ之ヲ制止シ若シ肯セサルトキハ降車セシムヘシ

第廿九條　馭者臺ニ客ヲ乘載シ又ハ屋根ニ物品ヲ載スヘキ構造ヲナサスシテ物品ヲ載スヘカラス

第三十條　駐車場ノ外車馬ヲ置クヘカラス但乘客用辨ノ爲メ往來ノ妨害トナラサル場所ニ一時停車スルハ妨ケナシ

第三十一條　行車中ハ濫リニ飲食又ハ喫煙ヲナスヘカラス

第三十二條　制止ヲ肯セス出火場其他群集ノ場所ニ車馬ヲ入ルヘカラス

第三十三條　他人ヲシテ馬ヲ馭セシムヘカラス

第三十四條　行人ニ對シ言語動作ヲ以テ乘車ヲ勸メ又ハ侮慢ノ言行ヲナスヘカラス

第三十五條　馬車ヲ並ヘ馳セ又ハ濫リニ疾驅シ若クハ競爭スヘカラス

第三十六條　馬車ノ通行及避讓方ハ左ノ例ニ從フヘシ

一馬車道ノ設ケアル場所ハ左側其設ケナキ場所ハ中央ヲ通行スヘシ

二車馬及歩行者ニ行逢フトキハ左ニ避ケ軍隊並ニ砲車輜重車ニ對シテハ右ニ避クヘシ

三賃車ニ對シテハ空車之ヲ避ケ坂路ハ上リ車又ハ空車ニ於テ避讓スヘシ

四前車徐行シ後車疾行セントスルトキハ掛聲ヲ爲シ前車ハ左ニ避ケ後車ハ右ヲ通過スヘシ

五郵便用消防用ニ供スル車馬及灌水車又ハ葬送其他公式ノ行列ニ行逢フトキハ避讓スヘシ

第三十七條　二車以上引續キ行進スルトキハ後車ハ前車ヨリ相當ノ距離ヲ取ルヘシ

第三十八條　往來雜沓又ハ狹隘ノ場所及街角橋上ヲ通過スルトキハ徐行シ掛聲ヲナシ且馬丁ヲシテ前行セシムヘシ但街角ニ於テハ右ハ大廻リヲナシ左ハ小廻リヲナスヘシ

第三十九條　街角橋上其他往來ノ妨害トナルヘキ場所ニ於テ客ヲ昇降セシムヘカラス

第四十條　馬匹ヲ殘虐ニ使用スヘカラス

第四十一條　夜中燈火ナクシテ行車スヘカラス

第四十二條　車体馬匹ハ常ニ清潔ニスヘシ

第四十三條　定員三分ノ一以上ノ乘客アルトキハ正當ノ理由ナクシテ出車ヲ拒ムヘカラス

第四十四條　乘客降車ノ際ハ其遺留品ナキヤニ注意シ若シ之レアルトキハ直ニ返付スヘシ其主分明ナラサルトキハ

速ニ警察署又ハ分署ニ届出スヘシ

但乘客用弁ノタメ降車スルニ當リ其物品アルトキハ特ニ寄托ナキモ紛失セサル様注意スヘシ

第五章　乘載制限

第四十五條　定員外ノ客ヲ乘載スヘカラス但十年未満ノモノハ二人ヲ以テ一人ト看做シ七年未満ノ者ハ定員外トス

第四十六條　左ニ記載シタルモノハ乘載スヘカラス

一六種傳染病狂癲病其他乘客ニ於テ厭忌スヘキ病狀アルモノ

二瘋癲者暴行者亂醉者及乞食体ノ者

三汚穢物其他惡臭ヲ發シ又ハ汚染ノ虞アル物品

四獸類及車体外ニ張出スヘキ長大ノ物件

第六章　賃錢及駐車場

第四十七條　馬車ノ賃錢ハ組合ニ於テ之ヲ定メ警察署ニ届出認可ヲ受クヘシ

其變更セントスルトキ亦同シ

第四十八條　馬車ノ賃錢ハ之ヲ明記シ組合頭取ノ捺印ヲ受ケ車内及組合取締所并ニ駐車場ノ見易キ所ニ掲示スヘシ

第四十九條　何等ノ名義ヲ以テスルモ乘客ニ對シ賃錢定額外ノ金錢ヲ請求スヘカラス

第五十條　駐車場

ヲ設ケントスルモノハ警察署又ハ分署ニ届出認可ヲ受クヘシ

其變更セントスル時亦同シ

第五十一條　駐車場ニハ左ノ標識ヲ製シ組合頭取ノ烙印ヲ受ケ之ヲ見易キ所ニ建設スヘシ

用材適宜　地上六尺　五寸角

第五十二條　駐車場ノ地盤ハ可成石煉化石敷キ又ハ板ヲ敷キ且馬尿溜ヲ設クヘシ

第五十三條　駐車場ハ日々掃除ヲナシ常ニ清潔ナラシムヘシ

乘合馬車駐車場㊞

何郡町村何組合

第七章　營業組合

第五十四條　營業者ハ警察署ヨリ指定スル區域ニ從ヒ組合及組合取締所ヲ設ケ其組合ノ名稱取締所ノ位置ヲ其警察署ニ届出認可ヲ受クヘシ

其變更セントスルトキ亦同シ

但組合取締所ニハ左ノ看板ヲ製シ之ヲ掲出スヘシ

組合名取締所

用材適宜　竪二尺五寸　横七寸　厚八分

第五十五條　組合ニ入ラサルモノハ馬車營業ヲナスヿヲ得ス

第五十六條　各組合ハ組合保証金トシテ別ニ布達スル金額ヲ警察署ニ納ムヘシ

但適宜公債証書國立銀行預リ券ヲ以テ納ムルコトヲ得

第五十七條　警察署ニ納メタル組合保証金ハ組合中ノ營業者及ヒ取者馬丁營業上ニ關シ他人ニ被ラシメタル損害ノ償ヒ等ニ充用スルヿアルヘシ

第五十八條　組合保証金ニ缺額ヲ生シタルトキハ十日以内

ニ之ヲ完納スヘシ若シ之ヲ完納セサルトキハ組合營業ノ効ヲ失フモノトス

第五十九條　營業者ハ組合ニ關スル費用ヲ負擔スヘシ

第六十條　組合ニ於テハ組合取締所ノ費用收支違約者處分方法其他營業上必要ノ事項ヲ規約シ警察署ノ認可ヲ受クヘシ其變更セントスルトキ亦同シ

第六十一條　組合ニハ頭取一名若クハ二名ヲ置クヘシ頭取ハ營業者中ヨリ公撰シ其住所氏名ヲ警察署ニ届出認可ヲ受クヘシ

第六十二條　頭取ハ諸達命令ニ從ヒ組合營業人ノ取締ヲナシ專ラ行客ノ利便ヲ謀ルヘシ

第六十三條　左ノ資格ニ適合スル者ニアラサレハ頭取タルヿヲ得ス

一組合營業者ニシテ年齡廿五年以上ノモノ

二組合區域內ニ相當ノ家屋若クハ土地ヲ所有スルモノ

三營業ニ關スル諸規則ヲ解讀シ算筆ニ通スルモノ

第六十四條　前條ノ資格ニ適合スト雖モ强竊盜及詐欺取財ノ罪ヲ犯シタルモノハ頭取タルヿヲ得ス其他ノ犯罪ト雖モ監視中ノ者亦同シ

第六十五條　警察署ニ於テ組合頭取ニ不都合ノ所爲アリト認ムルトキハ臨時改撰セシムルコトアルヘシ

第八章　罰則

第六十六條　第一條第二條第三條第六條第七條第八條第十條第十一條第十二條第十三條第十四條第十七條第廿三條第廿五條第廿七條第廿八條第廿九條第卅一條第卅二條第卅三條第卅四條第卅五條第卅六條第卅七條第卅八條第卅九條第四十條第四十一條第四十三條第四十四條第四十五條第四十六條第四十七條第四十八條第四十

九條第五十條第五十一條第五十五條ニ違背シタルモノハ違警罪ノ刑ニ處セラルヘシ第廿四條第卅條ニ違ヒ制止ヲ背セス第廿二條第四十二條第五十三條ニ違ヒ督促ニ從ハサル者亦同シ

但刑法ニ正條アルモノハ其本法ニ從フ

附則

一本則ハ明治廿年十月一日ヨリ施行ス

一現今營業者ニシテ引續營業セントスル者ハ本則施行ノ日ヨリ卅日以內ニ出願允許ヲ受クヘシ

但第十七條ノ制限ニ適セスト雖ヒ本則施行ノ日ヨリ六ケ月以內特ニ使用ヲ允許スルコアルヘシ

一本則施行ノ日ヨリ卅日以內ニ組合及規約ヲ設ケ且頭取ヲ撰擧シ認可ヲ受クヘシ

廿三乘合馬車取締規則ニ違背シタル者

○三重縣令第五十一號　明治廿年六月十日

今般乘合馬車取締規則營業人力車取締規則改正候ニ付テハ保証金及手數料額左ノ通相定ム

一馬車組合保証金參拾圓

一人力車營業者身元保証金五圓

但輓子一名毎ニ金貳圓ヲ遞加ス

一檢査証鑑札手數料檢査証壹個ニ付金五錢鑑札壹個ニ付金三錢

○三重縣訓令第八百二號　明治二十年六月二十九日

警察署

分署

乘合馬車組合頭取等ノ取扱フヘキ事項左ノ通相定メ候條其取締所ヘ通達致スヘシ

頭取々扱事目

第一條　乘合馬車組合頭取ニ於テ取扱フヘキ事項左ノ如シ

一營業ニ關スル諸規則命令等ハ速ニ同業者ニ通知スル事
二營業ニ關スル願屆ニ加印シ意見アルトキハ添申スル事
但加印ヲ拒ムヲ得ス
三營業者馭者馬丁名簿ヲ製シ組合員ニ異動增減アル都度加除訂正シ且犯則ノ處分ヲ受ケタル者アルトキハ其旨ヲ記入シ人員氏名等ニ相違ナカラシムル事
但營業者其他一種類毎ニ見出ヲ附スルヲ要ス
四組合ニ關スル費用ヲ收納及支出スル事
五組合ニ關スル費用ヲ決算シ之ヲ組合ニ報告スル事
六頭取撰擧ニ關スル事務ヲ取扱フ事
七組合保証金ニ關スル事務ヲ取扱フ事
八駐車場ノ標識賃錢表看板類ニ押印スル事
九右ノ外規約ヲ以テ定メタル事項
第二條　人力車組合取締人宿屋組合取締ニ於テハ前條第一項乃至第六項及第八項第九項ニ準據シテ取扱フヘシ

○三重縣訓令第八百號　明治二十年六月二十九日

警察署
分署

馬車營業願取扱手續人力車營業願取扱手續宿屋營業願取扱手續左ノ通相定ム

但從前ノ令達本文ニ抵觸ノ分ハ廢止トス

馬車營業願取扱手續

第一條　馬車營業若クハ鑑札檢査証交付等ノ願書ヲ受領セハ速ニ調査ヲ加ヘ許否ノ手續ヲナスヘシ

第二條　分署ニ於テ營業願書類ヲ受クレハ之ヲ調査シ不都合ナシト認ムルモノハ願書欄外右角ニ檢印シ意見アルトキハ詳細ニ添申スヘシ

第三條　營業者臺帳ヲ製シ種類毎ニ部門ヲ分テ記入シ主

任認印スヘシ

第四條　營業者駕者馬丁各別ニ番號ヲ起記スヘシ

但番號ハ數年通シテ之ヲ用ユヘシ其廢業ニテ欠番號アルトキハ新規營業者アル毎ニ之ヲ補塡スヘシ

第五條　鑑札ハ左ノ雛形ニ依リ調製シ本人ノ氏名年齢組名營業者即抱主ノ住所氏名等ヲ記シ然ル後同樣臺帳ニ記入スヘシ

用材適宜　横三寸　竪四寸　厚二分

表

第何號

何國何郡町村何番屋敷住

何組令何ノ誰駕者(馬丁)

駕者(馬丁)何ノ誰

當何月何年何月

裏

明治何年月日　檢　小烙印

明治何年月日　檢

何々

明治何年月日　某　署

第六條　營業免許証ハ許可ノ指令書ヲ以テ代用スヘシ

第七條　鑑札ヲ與フルモノハ指令ヲ付セス若シ許可セサルトキハ願書ノ謄本ヲ作リ之レニ指令ヲ付スヘシ

第八條　規則第十條ニ依リ其書換再度ヲ申請スル時ハ其一部若クハ全部ヲ鉋刪メ書換又ハ訂正氏名變更ノ如キハ之ヲ朱抹シ傍ラニ記入シ主任認印ス或ハ更ニ調製付與シ其事由年月日等ヲ臺帳ニ記入スヘシ

但免許証再度ノ申請ニ係ルトキハ其願書ニ允許ノ指令ヲ付スヘシ

第九條　免許証檢査証鑑札ヲ亡失シタル者アルトキハ速ニ其事由年月日ヲ具シ該免許証等ノ謄本一通ヲ添ヘ本部長ニ申報スヘシ

第十條　檢査証臺帳ヲ製シ車体馬匹毎ニ部門ヲ分テ記入

シ主任認印スヘシ

第十一條　車体馬匹各別ニ番號ヲ起記スヘシ但番號ノ用法ハ第四條但書ニ準スヘシ

第十二條　檢査證ハ左ノ雛形ニ依リ調査シ營業者ノ住所氏名組名等ヲ記シ然ル後同樣臺帳ニ記入スヘシ

用材適宜　横五寸　竪四寸　厚四分

表

第何號
何國郡町村何番屋敷住
何組合何ノ誰車
馬車檢査證
明治年月日　某署印　署名烙印
明治年月日　檢
明治年月日□　小烙印
明治年月日□
何々

用材適宜　横三寸　竪四寸　厚四分

表

第何號
何國郡町村何番屋敷住
何組合何ノ誰馬
馬匹檢査證
毛色及馬齡
明治何年月日　某署　署名烙印

裏

明治何年月日　檢　小烙印
明治何年月日□
何々

第十三條　鑑札車体馬匹ハ營業者ノ迷惑セサル樣便宜ノ方法ヲ設ケテ之ヲ檢査シ規則ニ抵觸セス又安全ヲ保ツノ認メアルモノハ鑑札及ヒ馬匹檢査證ハ裏面車体檢査證ハ表面左側ニ(明治何年月日)ト檢字ノ小烙印ヲ押捺シテ付與スヘシ但規則ニ抵觸スル等檢印付與シ難キモノハ之ヲ引揚ケ相當ノ處置ヲナスヘシ

第十四條　鑑札檢査證中押印スヘキ餘白ナキトキハ更ニ調製付與スヘシ

第十五條　馬車ノ使用ヲ差止ルトキハ單ニ其抵觸ニ係ル事物ノ檢査證ノミ引揚ケ其制限ニ適スルヲ待テ之ヲ付與スヘシ

第十六條　規則第十一條ニ依リ免許證鑑札檢査證ヲ返納セシムトキハ臺帳ヲ更正スヘシ

第十七條　乘客定員ハ馬一頭ニ付乘客六人以內トシ認可ノ上臺帳ニ其員數年月日ヲ記入スヘシ

但規則第十四條ノ乘客定員ハ二頭挽乘客定員何人一頭挽乘客定員何人ト記載スヘシ

第十八條　馬車賃錢ハ左ノ定額內ニアラサレハ認可スヘカラス又賃錢表記載方モ此例ニ依ラシメ實地ノ摸樣ニ依リ尙ホ細密ノ規定ヲ必要トスルニ於テハ成ルヘク詳

記セシメ旅客ノ便ヲ謀ルヲ要ス

明治年月日

某署認可

馬車賃錢表

何地乘合馬車組
合取締所ノ印

道路里程及時間	賃錢 一人
第一　伊勢街道　伊勢別街道　東海道　十八丁	金壹錢以內
第二　右之外各道　十八丁	金壹錢五厘以內
一壹臺雇切　六時間	金壹圓貳拾錢以內
一壹臺雇切六時間以上ハ一時間ヲ加フル毎ニ	金貳拾錢以內

逆力道常十八丁ニ付平地ニ十五分時第一道ノ阪路及第二道中ノ阪路惡路ハ二十分時ヨリ少カラサル割ヲ以テ行事スルモノトス

保護人アル七年未滿ノ者ハ賃錢ヲ要セス十年未滿ノ者ハ二人ヲ以テ一人ト見做ス但單ニ一人ヲ乘載スルトキハ仍ホ一人ノ賃錢ニ同シ

十八丁未滿ハ仍ホ十八丁ニ同シ

一壹雇切ハ二頭挽ナルトキハ本表ニ五割ヲ增加ス

夜中發車又ハ途中夜ニ入ルトキ又雨雪ニテ泥濘ノ際ハ本表ニ弐割ヲ增加ス

第十九條　駐車場ハ營業人自已ノ費用ヲ以テ私有地ニ設ケシムヘシ駐車場ハ町並及道路ノ体裁ヲ損セス清潔ニシテ見苦カラス車馬數ノ多寡ニ依リ其出入ニ差支ナキヲ斗リテ之ヲ認可スヘシ

第二十條　組合區畫ハ警察署所轄ノ區域ニ依ラシムヘシ但營業者小數ニシテ組合ヲ設ケ難キ場合ニ於テハ豫メ本部長ニ伺出指揮ヲ受クヘシ

第廿一條　組合ハ其取締所々在地ノ地名ヲ冠シ何地乘合馬車組合又取締所ハ何組合取締所ト稱セシムヘシ

但一旦名稱ヲ認可セシ後ハ假令取締所ヲ移轉スルモ其名稱變更ハ認可セサルヘシ

第廿二條　取締所ハ警察署分署所在地ニ設ケシムルヲ要ス

但其所在地ニ接續ノ町村等ニテ頭取召喚其他取締上不便ナキニ於テハ認可スルモ妨ケナシ

第廿三條　取締所ノ印判ハ左ノ雛形ニ依ラシムヘシ但頭取ハ自已ノ印章ヲ用ヰ別ニ役印ヲ調刻セシメサルヘシ

書体楷書　烙印方一寸五分　木印同上

何地乘合馬車組合取締所之印

第廿四條　頭取ハ業務ノ繁閑ニ從ヒ一名若クハ二名ヲ撰ハシメ其被撰者ノ人ト爲リ身元並ニ同業者ノ信否如何等ヲ調査シ不都合ナキニ於テハ認可ノ手續ヲナスヘシ

第廿五條　保証金ハ組合頭取ヨリ差出サシメ他人ニ被ラシメタル損害賠償等ニ當ラシムヘシ

但保証金ハ組合廃絶スルニアラサレハ返付セサルヘシ

第廿六條　保証金トシテ納入スル公債証書ハ時價ヨリ二割一旦納入後ハ價格低落スル以上ノ減價タルヘシ

但シ公債証書ノ利子札ノ如キハ頭取ノ申請ニ依リ其期毎ニ下渡スヘシ

第廿七條　組合規約ニハ左相互ノ權利義務ノ關係ヨリ營業取締上必要ノ件々ヲ明揭セシムヘシ左ニ其概目ヲ示ス

一組合保証金ハ營業人ヨリ平等ニ出スカ等差ヲ付スルカ又他ノ方法ニ依ルカノ詳細

二組合費用ハ組合事務調理ニ差支ナキヲ度トシ筆紙墨料看版印刷料取締所ハ頭取又ハ營業人ノ自宅ニ設ケシテ其席ヲ借ルトキハ借席料ノ家賃ヲ省クヲ要スレトモ已ナ得サル事情アル者ニ限リ月手當ヲ給スルトキハ其手當等ニ限ルヿ及其費用收納及支出方法ノ詳細

三違約者ハ違約料ヲ徵收シ又ハ除名スル等其方法ノ詳細

四頭取辭任セントスルトキハ前以テ組合會員ニ申出後任ノ認可ヲ得ルノ後其任ヲ離ルヽコト又取締所事務引繼方法ノ詳細

五營業者中ヨリ組合會員ヲ互撰セシメ賃錢其他規約ノ更正頭取ノ撰擧方法取締所事務取扱ノ事項等ヲ議定セシムル方法ノ詳細

六右ノ外警察取締上又營業上必要ノ件々ノ詳細

第廿八條　頭取其他認可ヲ與フヘキモノニシテ規則ノ資格ヲ有セサルモノヽ外之ヲ認可セス又認可ノ後取消サントスルトキ其事由ヲ具シ本部長ニ伺出ヘシ

第廿九條　頭取賃錢組合規約ヲ認可セシトキハ其都度書類寫一通ヲ本部長ニ差出ヘシ

第三十條　手數料ハ警察費雜收入ニ編入シ檢査証鑑札等ノ費用ハ警察署ヨリ支辨スヘシ

明治二十年制令第千四百二十七號ヲ以テ改正

第三十一條　組合規約賃錢駐車上頭取組合取締所等ノ諸書類ハ常ニ加除シテ明瞭ナラシメ置クヘシ

附則

一規則ノ附則ニ依リ特ニ車ノ使用ヲ免許スルトキハ其使用ノ期限ヲ車体檢査証及ヒ檢査証臺帳ニ記入スヘシ

人力車營業願取扱手續

第一條　營業者ハ輓子ヲ抱ヘ營業スルモノニ限ルヘシ尤モ數人若クハ數十人結合シ其内一人ヲシテ營業者ノ名義ヲ帶ハシメ他ハ輓子トシテ之レニ從屬スルノ便利ニ依ラシムルモ妨ケナシ

第二條　人力車ニ付テモ馬車營業願取扱手續第一條乃至第十六條第廿條乃至第廿四條第廿六條乃至第卅一條ニ準シ取扱フヘシ

但檢査証面ニハ（馬車）ヲ（人力車）トナスヘシ

第三條　車体ノ中張ハ地質必スシモ規則ニ記スル者ニ限ラスト雖專ラ清潔ヲ主トシ臭氣ヲ帶ヒ又ハ染色ノ他ヲ汚染スルヿナキ者ヲ用ヒシムルヲ要ス滯團膝掛又同シ

第四條　人力車賃錢ハ左ノ定額内ニアラサレハ認可セサルヘシ賃錢表記載方モ此例ニ依ラシメ實地ノ摸樣ニ依リ尚ホ細密ノ規定ヲ必要トスルニ於テハ成ルヘク詳記セシメ旅客ノ便ヲ謀ルヲ要ス

但第一街道ニ次クヘキ街道ハ第二街道トナシ其名稱ヲ列記シ其他道路險惡等ニテ第二道ノ賃錢ニ依ラシメ難キ街道ハ第三道ノ部分トシ認可スルモノトス

明治年月日
某署認可

人力車賃錢表

何地人力車組合取締所之印

道路里程及時間	賃錢	
	一人乘	二人乘

明治二十年訓令第千四百二十七號ヲ以テ追加

仝上ヲ以テ改正

第一 伊勢街道 伊勢川街道 海道 東	十八丁	金貳錢以内 金三錢以内
第二 何街道	十八丁	金貳錢五厘以内 金三錢五厘以内
第三 右ノ外各道	十八丁	金三錢以内 金四錢以内
第四 市街近傍ノ地内ハ地内ト雖モ	十八丁	金三錢五厘以内 金五錢五厘以内
六時間雇切		金三十錢以内 金四十錢以内
雇切七時間以上ハ一時間ヲ加フル毎ニ		金四錢以内 金五錢以内
雇切ニ非サル客待ハ以上ハ卅分ヲ加フル毎ニ		金一錢五厘以内 金一錢五厘以内

速力ハ通常十八町毎ニ平地ハ廿分時第一道ノ阪路及第二道中ノ阪路悪路並ニ第三道ハ廿五分時ヨリ多カラサル割ヲ以テ行車スル者トス

二人挽以上ハ通常速力ニ拘ハラス急行スルモノトス

保護人アル七年未満ノモノハ賃錢ヲ要セス十年未満ノモノハ二人ヲ以テ一人ト見做ス但單ニ一人ヲ乘載スルトキハ仍ホ一人ノ賃錢ニ同シ

十八丁未満ハ仍ホ十八丁ニ同シ

二人乘ト雖モ一人ヲ乘載スルトキハ一人ノ賃錢ニ同シ

二人挽ハ本表賃錢ノ三倍トス三人挽以上ハ挽子一人ヲ増ス毎ニ其二人挽

賃錢ノ半額ヲ過加ス

夜中發車又ハ途中夜ニ入ル時又雨雪ニテ泥濘ノ際ハ本表ニ二割ヲ増加ス

本表掲記スル道路ノ外他組合ニ於テ第三道賃錢ノ定メアルトキハ其通過スル場所賃錢ニ由ル

暴風雨積雪ノトキハ本表ニ五割ヲ増加ス

第五條 公設駐車場ハ往來ノ繁閑等ニ應シ通行ノ妨害トナラサル場所ニ便宜之ヲ設ケ左ノ標識ヲ立ツヘシ

但シ多少道路ノ妨害タルヲ免カレサレハ成ルヘク私設駐車場ヲ設ケシメ公設駐車場ノ數ヲ減スルヲ要ス

用材適宜 五寸角 地上六尺

公設人力車駐車場 印

從是(方位)長何間何尺
長何間何尺

署名烙印

第六條 規則第十九條第四項組名等ノ記載方ハ左ノ書例ニ準スヘシ

但成ルヘク金色ノ文字ヲ用ヒシムヘシ

津第……
組三一……横文ヲ附記スルトキノ位置ヲ示ス
合號……

第七條　私設人力車駐車場ハ營業者自己ノ費用ヲ以テ私用地内ニ設ケシムヘシ

駐車場ハ清潔ニシテ見苦カラス車數ノ多寡ニ依リ其出入ニ差支ナキヲ謀リテ之ヲ認可スヘシ

但不得已場合ニ於テ道路中實際差支ナキ場所ハ出願ニ依リ假ニ使用ヲ許可スルヲ得

第八條　私設人力車駐車場ハ其場ノ模樣ニ依リ看版ニ代フルニ標識公設駐車場ニ建設スル標識ノ寸方及記載方ニ倣ヒ以テスルモ妨ケナシ但營業者輓子其私宅ニ車ヲ置クトキハ駐車ノ例ニ依ラシムルノ限ニアラス

附則

一　規則ノ附則ニ依リ特ニ車ノ使用ヲ允許スルトキハ其使用期限ヲ車体檢査証及ヒ檢査証臺帳ニ記入スヘシ

宿屋營業願取扱手續

第一條　宿屋ニ付テモ馬車營業願取扱手續第一條乃至第四條第六條第八條第九條第十六條第廿一條乃至第廿四條第廿七條乃至第廿九條第卅一條ニ準シ取扱フヘシ

第二條　營業用ニ供スル建物ノ認可ヲ請フトキハ規則ニ依リ調査シ旅人宿ニ於テハ成ルヘク左ノ數項ヲ備ヘシメタル上認可スルヲ要ス

一　清潔ニシテ濕氣若クハ厭忌スヘキ臭氣アラサルヿ

二　客室ノ廣サハ三疊以上其天井ノ高サハ鴨居ヨリ一尺五寸以上ナルヿ

三　客室ノ間仕切ハ壁又ハ板戸其他衝障子等ヲ用ヒ且ツ板戸衝障子ニハ錠前等ヲ備フルヿ

四　客室ノ出入口ハ一方ニ定メ廊下又ハ樣側ヨリ出入ス

ル様構造スルヿ

五客室ノ出入口ニハ板戸又ハ襖障子ヲ用ヒ且ツ内外ニ錠前等ヲ備フルヿ

六客室ノ出入口及ヒ押入等ノ鍵ハ二個ヲ製シ一ハ宿泊人一ハ營業者ニ於テ管守スルヿ

七客室ノ窓扉及ヒ椽側ニ雨戸ヲ設ケ取締ヲナスヿ

第三條　組合區畫ハ警察署所轄ノ區域ニ依ラシムヘシト雖モ土地ノ狀況ト取締上ノ便否ヲ謀リ三區以下ニ分割スルモ妨ケナシ但組合ハ旅人宿ト下宿屋木賃宿ヲ一組トシ種類ヲ分タサルヘシ

第四條　宿泊人名簿ハ規則第三十條ニ依ラシムヘシト雖モ官吏ニ限リ官職名氏名宿泊及ヒ發足月日ノミ記載鎮臺兵ノ如キハ其士官中重立タル者一人ノ氏名等ヲ記シ他ハ外何名ト員數ノミヲ記載スルヲ得セシムルモ妨ケナシ

附則

一規則ノ附則ニ依リ特ニ免許ヲ與ヘタルトキハ其期限ヲ免許証及ヒ臺帳ヘ記入スヘシ

○警規第三十四號　明治二十年十月五日

警察署
分署

本年六月訓令第八百號馬車營業願取扱手續第十二條馬匹檢査証寸法変宜左ノ如クシ楕圓形ニ爲スヲ得ヘシ

竪三寸　横二寸　厚貳分

○警規第三十七號　明治二十年十二月二十四日

警察署

營業人力車取締規則第二十一條乘合馬車取締規則第廿一條宿屋取締規則第五條中諸犯罪ノ儀ニ付左之通心得ヘシ

但從前ノ指令回答等本文抵觸ノ分ハ取消ス

第一該犯罪ハ舊法ニ法リ處斷セラレタルモノヲモ包含セ

リト雖モ其所爲惡意少ク且ツ充分改悛ノ情況アリテ營業ヲ許スモ妨ケナシト思量スルモノハ事情ヲ詳具シ出願ノ都度伺出ツヘシ

第二其舊法ニ依リ處斷セラレタルモ其所爲新法ニ於テハ罪セサレサルモノ及舊法ノ罪名ハ本則ニ抵觸スルモ其所爲ハ新法ハ別罪ヲ以テ問フ（例ヘハ舊法準竊盜詐欺取罪ノ如キヲ云フ）モノハ別ニ伺ヲ要セス營業ヲ許スヲ得ヘシ

○

◎陸運及渡舟

○三重縣令第五十八號　明治二十年六月二十一日

陸運受負營業取締規則渡舟營業取締規則左之通相定メ本年十月一日ヨリ施行ス

但營業人ハ九月卅日マテニ出願許可ヲ請フヘシ

陸運受負營業取締規則

第一條　陸運受負營業ヲ爲サントスル者ハ當廳ニ願出許可ヲ請ケ廢業スルトキハ其旨屆出ヘシ

第二條　陸運受負營業人ハ其營業ノ名稱ヲ記シタル看板ヲ店頭ニ掲クヘシ

第三條　陸運受負營業人ハ諸賃錢表及運送方法ノ要領ヲ店頭看易キ場所ニ掲示スヘシ

第四條　陸運受負營業人ハ故ナクシテ貨物運送ノ依托ヲ拒ムヘカラス

第五條　陸運受負營業人ハ故ナクシテ貨物ヲ留メ置クヿナク必ス速ニ配達運送スヘシ

第六條　貨物ノ運送方法ハ次ノ各項ニ遵據スヘシ

第一項　運送受負物ハ特別通常ノ二種ニ區別シ取扱フヘシ特別運送物ハ損害紛失ノ辨償ヲ要スルモノニシテ通常運送物ハ之ヲ要セサルモノトス

第三項　特別運送物受負ノ際ハ其受負ヘキ事項即チ濡、霑破損紛失强奪盜及水火災等)及其辨償金額受負料等ヲ詳細ニ認メタル証書ヲ荷主ニ渡スヘシ

第三項　特別運送物ハ表包見易キ部分ヘ特別運送物ノ五字ヲ朱記シ若クハ朱記シタル木札ヲ附シテ發送スヘシ

第四項　特別運送物到達シタルトキハ損害或ハ不足アルニ於テハ其繼立又ハ配達ヲ止メ其旨ヲ元受負人ニ急報シ損害辨償ノ手續ヲ爲スヘシ尤辨償金ハ金額ノ多少ニ拘ハラス速ニ其荷主ヘ拂渡スヘシ

第五項　通常運送物ハ損害辨償ノ責ニ任スルニ及ハスト雖モ受負人ハ都テ其取扱ヲ鄭重ニシ若シ疎虞懈怠等ニヨリ損害又ハ紛失等アリテ荷主ヨリ之カ辨償ヲ要スルトキハ之ヲ拒ムヿヲ得ス

第六項　運送物ハ途中濡霑損傷又ハ脫漏ノ難ヲ防クカ爲メ勉メテ其荷造ヲ堅固ニスヘシ

第七項　運送物ノ荷造粗造ニシテ毀損脫漏等ヲ防キ難キト思慮スルトキハ其改造方ヲ荷主ニ請求スヘシ但其荷物ニ對シ受取証ヲ渡シタル后之カ改造ヲ要スルトキハ其受負營業人ニ於テ之カ改造ヲ爲スヘシ

第八項　運送物ヲ受負フタルトキハ受取証書ヲ荷主ニ交附シ之ヲ發送スルトキハ送狀ヲ添付スヘシ

但特別運送物ノ送狀ニハ運賃貨物ノ元價個數々量及發着地名荷主並ニ受取人ノ姓名ヲ詳記スヘシ

第九項　途中毀損又ハ脫漏シ易キモノ及ヒ他ノ物品ヘ浸染ノ害ヲ與ヘ易キモノハ特ニ注意シテ之ヲ取扱ヒ且表包視易キ部分ヘ其旨ヲ朱記シ若クハ朱記シタル木札ヲ附スヘシ

第十項　運送物ヲ陸運ヨリ水運ニ移シ廻漕スルトキハ廻

送貨物取扱條例ニ基ツキ取扱フヘシ且ツ此場合ニ於テハ水運ニ移スヘキ場所受負營業人其荷主ニ代リ安全運送ノ手續ヲ爲スヘシ

第十一項　荷物受取人移住又ハ其宿所氏名ノ記方粗漏ニシテ荷物ヲ配達スヘキ途ナキトキハ一應差出人ヘ照會シ尚ホ其途ナキニ於テハ差出人ヘ返送スルモノトス尤親族故舊ノ口實ヲ以テ其受取方ヲ申出ル者アルモ差出人ヘ照會ノ上ニアラサレハ之ヲ渡スヘカラス

第七條　營業出願ノ際ハ願書ト共ニ左ノ書面ヲ差出スヘシ但賃錢及運送方法ニ變更スルトキハ亦屆出ヘシ

一各地賃錢表但シ特別運送物ト通常運送物トニ對スル運送ノ區別及配達料詳細ニ記載スヘシ

一運送方法　但會社ナレハ其社則モ共ニ差出スヘシ

渡舟營業取締規則

第一條　渡舟營業ヲ爲サントスル者ハ其國縣道線ニ係ル者ハ郡役所ヘ願出許可ヲ請ケ廢業ヲ屆出ヘシ

第二條　渡舟營業出願ノ際ハ左ノ各項ヲ詳記シタル書面並ニ關係町村ノ承諾書ヲ添付スヘシ

一人馬車等渉テ渡舟賃ノ定額

一渡舟ノ構造

一渡守ノ人員(平素何人出水ノ際何人ト記スルヲ要ス)

一河幅及其水量(平水何程出水ノ際何程ト記スヘシ)

第三條　渡舟場ニハ賃錢額ヲ明記シタル標札ヲ建設スヘシ

第四條　旅人渡舟ヲ要ムルトキハ速ニ之ニ應シ故ナクシテ延滯セシムヘカラス

第五條　出水ニ際シ危險ノ虞アルトキハ決シテ舟ヲ出スヘカラス

第六條　旅人群到ノ際ト雖モ猥リニ多數ノ牛馬車ヲ乘載

明治二十年縣令第八十四號ヲ以テ追加

シ轉覆ヲ招ク等ノ事ナキ樣注意スヘシ

第七條　如何ナル口實アルモ定限外ノ渡舟賃錢ヲ請クヘカラス

第八條　渡舟賃錢ヲ增減セントスルトキハ第一條ノ手續ニヨリ許可ヲ請クヘシ

第九條、渡舟營業ノ許可ヲ受ケ又ハ廢業シタルトキハ其書面ノ寫ヲ添ヘ所轄警察署ヘ屆出ヘシ

但第八條ノ場合ニ於テモ亦タ本條ニ準ス

○

◎會社

○乙第三拾九號　明治十三年三月二日　郡役所

成規定例ナキ會社ハ人民相對ニ任セ官ノ許否ヲ要スルモノニ無之候條此旨相達候事

河港門

◎河川及堤防

○明治十六年警規第十五號達（本文ハ第一項ニアリ）

第五拾七項　木曾川及淀川流域諸山土砂扞止ノ諸作業取締之義ハ明治十三年甲第十四號布達ニ候處淀川流域諸作業ノ布達ニ違犯スルノ兼ヲ以テ違警罪ニ依リ處分セシキハ其宣告書寫ヲ以テ警部長ニ屆出ツヘシ

（此項津上野四日市山田警察署ニ限ル）

○甲第二十四號　明治十七年三月廿一日

明治十三年一月甲第十四號及同十四年四月甲第五十四號布達左之通改正候條此旨布達候事

木曾川淀川町屋川（一名員辨川）ノ三川流域諸山土砂扞止ノ諸作業取締方曾テ內務卿ヨリ被相達候次第モ有之候條右關係ノ諸山ニ於テ樹木ヲ伐採シ草根ヲ掘取シ石材ヲ切出

シ其他採鑛開墾土取等ノ業ヲ作ラントスルモノハ官私ノ別ナク其業ヲ作ントスル日ヨリ六ケ月前作業者ヨリ可伺出尤願等ヲ要スルモノハ伺ニ及ハス直チニ前同樣六ケ月前願出ヘシ若シ此布達ニ違背シタル者ハ違警罪ニ依リ罰セラルヘシ此旨布達候事

○甲第二十五號　明治十七年三月二十二日

本年二月太政官第三號布達之次第モ有之ニ就テハ民有森林ノ由水源ヲ養ヒ土砂ヲ止メ又ハ風潮ヲ防キ頽雪ヲ支フルノ類國土保安ニ關係アルケ所則チ河川ノ流域海岸並道路耕宅地沼ニシテ漫ニ其樹木ヲ斫伐シ鑛物土石ヲ掘採セハ他ニ障害ヲ及ホスコト不尠ニ付此場合ニ於テハ該地字番號反別及斫伐ス可キ樹種目通長本數掘採スヘキ種類量數ヲ詳記シ圖面相添ヘ三月已前可伺出（日本坑法ニ由リ出願ヲ要スルモノハ之ヲ除ク）此旨布達候事

但木曾川淀川町屋川流域內砂防工事ニ關シ作業取締アル旣ハ其布達ニ據ル可シ

○三重縣令第三拾二號　明治二十年三月十八日

明治十五年（五月）本縣甲第百拾三號布達堤塘幷樹木保護規則左之通改正ス

堤防保護規則

第壹條　堤防ノ保護ハ地元及關係町村ノ負擔トス

但堤防ノ立竹木保護モ亦本文ニ同シ

第貳條　地元及關係町村ニ於テハ堤防長百間ニ付左ノ割合ニヨリ常ニ水防ノ諸色ヲ準備シ非常ノ際ハ其防禦ニ從事スヘシ

但河川ノ大小堤防ノ摸樣ニ依リ適宜斟酌スルヲ得ルト雖モ左ノ限度ニ下ルヿヲ得ス

一明俵　三拾俵以上

一縄　十房以上但二十尋回
一杭木　拾五本以上但長九尺末口三寸以上

第三條　水防用ノ諸色ハ腐朽セサル樣時々之ヲ交換スヘシ

第四條　前條儲藏ハ其場所ヲ定メ置キ其旨屆出ツヘシ
但土木監督區署員ニ於テ時々現場ニ就キ之ヲ檢査スルヿアルヘシ

第五條　明治二十年一月本縣々令第拾三號土木費支辨法ニ掲ケタル三等川以上ノ堤外法先五間以内ニ於テ土石ヲ掘採シ若クハ芝草ヲ刈取リ又ハ木石ヲ堆積スル等渾テ堤防直接ノ諸作業ヲナスヘカラス
但不得止モノハ近傍ノ圖面ヲ添ヘ其旨願出ツヘシ

第六條　堤防敷地民有ノモノト雖モ之ヲ進退或ハ樹竹ヲ伐採若クハ之ヲ栽植セントスルトキハ其旨願出ツヘシ

第七條　堤防ニ屬スル樋管等修繕ノタメ堤防ヲ堀鑿セントスルトキハ詳密ナル圖面ヲ添ヘ願出ツヘシ

第八條　前條々地方税ノ支辨ニ係ル場所ハ所屬土木監督區署ヘ屆出若クハ同署ヲ經テ縣廳ニ出願シ其町村費支辨ニ係ル場所ハ所屬郡役所ヘ屆出又ハ願出ツヘシ

第九條　堤防使用ノ許可ヲ得タルモノト雖モ其後水利ノ障害トナルヘキカ若クハ官ニ於テ必用ト視認ルトキハ返地セシメ又ハ停止スルヿアルヘシ

第拾條　使用ノタメ堤防ノ損所ヲ生スルトキハ所屬土木監督署員又ハ郡役所ノ指揮ヲ請ケ使用主ニ於テ之ヲ修補スヘシ

○甲第五十一號　明治十二年五月六日

川々堤外ノ土砂近來妄ニ堀採候者有之右者往々水行ヲ變シ爲ニ堤防ノ損害尠カラサルニ付以來堤防法先接近ノ場

所ニ於テ土砂堀取候儀一切不相成候條此旨布達候事

○三重縣訓令第九百六十二號　明治二十年八月二日

郡役所
戸長役場

町村費ヲ以テ支辨スル河川ノ儀ハ本年三月本縣令第三十二號堤防保護規則ニ準據スヘキハ勿論道路橋梁急破ニ際シ人馬ノ通行ヲ遮斷スル等無之樣豫メ之カ修繕ノ準備ヲ爲シ置クヘシ

○三重縣令第七十一號　明治二十年八月九日

河川流木取締規則左之通相定メ來ル九月一日ヨリ施行ス

但明治十六年五月本縣甲第三十一號布達ハ本文施行ノ日ヨリ廢止ス

河川流木取締規則

第一條　河川流域諸山ニ於テ樹木ヲ伐採シ水運流下ノ爲メ其木材ヲ溪澗ヘ積置モノハ降雨出水ノ際流出セシメサル樣其準備ヲナシ置クヘシ

第二條　河川上流ヨリ木材ヲ流下セントスル片ハ沿川各所ヘ人夫ヲ配置シ堤防及制水工若クハ橋梁渡船等ニ障碍ヲナサヽル樣之カ防禦ヲナスハ勿論增水(平水ヨリ三尺以上ヲ云)ノ節ハ流下スヘカラス

第三條　河川上流ヨリ木材ヲ筏トナシ流下セントスル片ハ貳人以上ノ上乘ヲ附スヘシ

○

◎船舶

○無號　明治二十年一月十日

四日市警察署

輸出米積込外國船取締之儀昨明治十一年十一月三十日附ヲ以テ相達候處左之通リ改正候條此旨相達候事

四日市港取締概則

一輸出米積込ノ御備外國船港内ニ碇泊スル時ハ小船一艘備入警部一名巡査貳名乘込時ニ該船ノ動靜ヲ巡視スヘシ

一船脚ノ土砂又ハ石等ヲ港内ニ投棄スルヲ見認ルトキハ直ニ該船乘込ノ我官吏ニ通辨ヲ托シ穩ニ差止メ陸地ヲ距ル英里五里(我二里强ニ當ル)以外ノ海中若クハ便宜陸地ヘ投棄セシムヘシ

一前條ノ場合ニ於テ彼レ若シ肯諾セサルヿアレハ該船々長ノ名刺ヲ請ヒ併セテ其事情ヲ本廳ニ具申スヘシ

○甲第百五十一號　明治十四年九月六日

今般岐阜縣ニ於テ川船取締規則別冊ノ通創定相成候ニ付當縣下ノ者ニテ該縣ヘ亘リ是等ノ營業ヲ爲スモノハ右規則ニ照準可致此旨布達候事

(別冊)

甲第八十九號

川船取締規則左ノ通相定候條此旨布達候事

但乘客船渡津船ノ營業者ハ從前許可シタル分モ尙此規則ニ照準スヘシ

岐阜縣令小崎利準

川船取締規則

第一條　管内川筋通航ノ船舶ハ此規則ヲ遵守スヘシ

第二條　諸船行逢ヲ時ハ互ニ左方ニ走リ避クヘシ川床ノ模樣ニ依リ左方ニ避ケ難キ時ハ上リ船ヨリ進行ヲ止メ下リ船ニ航路ヲ讓ルヘシ

第三條　行進中ト雖モ他ノ危難ヲ見聞セハ全力ヲ盡シテ救援シ其場合ニ依リ戸長又ハ警察官吏ニ急報スヘシ

第四條　船主水夫其他何人ニテモ乘組人中ニ怪シキ擧動

ト認ムル者アレハ警察官吏ニ密告スヘシ

第五條　乘客船渡津ニアラサル船舶ハ猥リニ旅客ヲ乘載スルヲ得ス

第六條　乘客船ノ營業者ハ前數條ノ外尙ホ左ノ各項ヲ遵守スヘシ

一每船乘客ノ定數運賃及發着寄繫ノ日時場所等ハ縣廳ノ認可ヲ經テ船內ニ掲示スヘシ

一乘客ノ定員ハ船体ノ廣狹新古及水度ニ依リ相當ノ制限ヲ設クヘシ其堅牢安全ナルモ一坪(客室ノ坪數曲尺六尺四方ヲ一坪ト算ス)ニ八人ヨリ超過スルヲ得ス若シ乘客手荷物ノ外客船ニ荷物ヲ合載スルモノハ之ニ準シ荷物拾五貫目ヲ一人ト同視スヘシ

一乘客船ハ其通航スル川路ニ適當ナル構造ニシテ非常ノ節乘客全員ヲ出散シ易カラシメ且ツ急難ヲ救ヒ得ヘキ用意ヲ爲スヘシ

一水夫ハ通航スル川床ノ摸樣等ヲ熟知スルモノニ限ル如何ナル時ト雖モ未熟ノ水夫ヲ雇入其業ヲ取ラシムルヲ得ス

一營業者ハ旅客乘船ヲ乞フ時先ツ住所職業年齡及ヒ行先ヲ聞取リ之ヲ乘船人名簿ニ登記シ尙船中ニモ一冊ヲ備置警察官吏其他何人ニテモ一見セント乞フモノニ披見セシムヘシ

一乘客船ハ定マリタル寄繫場所ノ外途中飛船ヲ禁ス

一此營業ノ許可並本年第一項ノ制限ヲ改正スル認可ヲ得タル時ハ發着寄繫スル場所ヲ管スル警察署ニ屆出ヘシ

第七條　渡津船營等ノ者ハ尙ホ左ノ各項ヲ遵守スヘシ

一渡船賃定額ハ渡岸ニ掲示スルノ外縣廳ノ認可ヲ經タ

ル乘客ノ定員荷物等ノ制限ハ各船又ハ渡頭ニ掲示スヘシ

一乘客ノ員數ハ本船構造ノ新古及水度ニ依リ相當ノ制限ヲ設クヘシ船体堅牢ナルモ一坪梁ヨリ梁マテヲ限リ曲尺六尺四方ヲ一坪ト算スニ八人ヨリ超過スルヲ得ス若シ人船ニ荷物又ハ牛馬等ヲ合載スルモノハ之ニ準シ荷物ハ拾五貫目ヲ一人ト同視シ人力車ハ三人荷車ハ五人牛馬ハ十人ト看做スヘシ

一渡船場ハ共有タリトモ其水夫ハ必ス熟練ノ者ヲ撰フヘシ如何ナル場合ト雖ヒ未熟ノ者ヲ使フヿヲ得ス

一渡船ハ往復帆ヲ揚ルヲ得ス

一此營業ノ許可又ハ本條第一項ノ制限ヲ改正スル認可ヲ得タル片ハ所轄警察署ヘ屆出ヘシ

第八條　此規則及縣廳ノ許可ヲ經タル制限ニ違背セシモノハ相當ノ處罰スヘシ

警察官吏ハ臨時船体ヲ檢査シ規則ニ從ハサルカ又ハ危險ノ虞アル時ハ航通ヲ差止ムルヿアルヘシ

○甲第一號　明治十九年一月十一日

木曾揖斐兩川筋通船取締規則左ノ通相定本年二月一日ヨリ施行ス

右布達候事

木曾揖斐兩川筋通船取締規則

第一條　旅客及貨物ヲ乘載シテ木曾揖斐兩川筋通航ヲ業トスル者ハ渾テ此規則ヲ遵守スヘシ但蒸氣船ヲ以テ通航スル者及ヒ渡船ハ此限ニアラス

第二條　營業人ハ當廳ニ願出許可ヲ受ケ廢業スル片ハ其旨ヲ屆出スヘシ

第三條　營業人ハ左ノ各項ヲ定メ當廳ノ許可ヲ受ケテ之

ヲ遵守スヘシ但認可ノ后改正増補等ヲ要スル片ハ其都度認可ヲ受クヘシ

一船數及製造ノ年月日

一船主ノ住地姓名

一船ノ坪數及修繕ノ度數幷ニ年月日但曲尺六尺四方ヲ一坪トス

一乘客貨物乘載及着船ノ場所幷ニ航路水夫ノ定員

一諸賃錢定額

一發着定時間但シ定時間外臨時發船スルモノハ其事ヲ明記スヘシ

一右ノ外運送規則等アル者ハ其規則方法

第四條　此營業ノ許可及第三條ノ認可ヲ受タルトキハ營業地所轄警察署ヘ屆出ヘシ且廢業又ハ水夫雇入雇止ノ節ハ住地姓名ヲ詳記シ其時々本文同樣屆出ヘシ

第五條　乘客ハ一坪八人ヨリ超過スヘカラス但七歲以上拾二歲未滿ノ者ハ二人ヲ以テ一人ト見做シ六歲以下ノ者ハ定員外トス乘客手荷物外ニ貨物ヲ合載スルトキハ拾五貫目ヲ以テ一人ト同視スヘシ

第六條　船ハ其通航スル川路ニ適當ニシテ非常ノ節乘客全員ヲ出散シ易カラシムル構造ノ者ニ限ルヘシ

第七條　水夫ハ通船スル川床ノ摸樣ヲ熟知スル者ニ限ルヘシ如何ナル時ト雖モ未熟ノ水夫ヲ雇入其業ヲ取ラシムヘカラス

第八條　營業者ハ旅客乘船ヲ乞フトキハ先ツ其住所姓名職業及行先ヲ聞取リ之ヲ乘船人名簿ニ登記シ尙船中ニモ其簿冊ヲ備置何人ニテモ一見セシムト乞フトキハ之ヲ披見セシムヘシ

第九條　諸船行逢フトキハ互ニ左方ニ避クヘシ川床ノ摸

樣ニヨリ左方ニ避ケ難キ時ハ上リ船ヨリ進行ヲ止メ下リ船ニ船路ヲ讓ルヘシ

第十條　乘客船ニアラサル船舶ニハ猥リニ旅客ヲ乘スヘカラス

第十一條　賃錢表及乘客貨物ノ定限ハ船中睹易キ場所ニ掲示スヘシ但乘客及貨物取扱所ノ設アル者ハ之ヲ店頭ニ掲示スヘシ

第十二條　何等ノ名義ヲ以テスルモ定額外ニ賃錢ヲ求メ又ハ制限外ニ旅客及貨物ヲ乘載スヘカラス

第十三條　定リタル場所ノ外ニ於テ旅客及貨物ヲ乘載シ又ハ陸揚ケスヘカラス但シ非常ノ際ハ此限ニアラス

第十四條　旅客ヲ引留メ强テ乘船ヲ促スヘカラス

第十五條　非常出水ノ際ニハ出船スヘカラス

第十六條　乘客又ハ乘載貨物ニ不審ト認ムルモノアルトキハ警察官吏ニ密告スヘシ

第十七條　危險ノ虞アリト認ムルトキハ警察官吏ニ於テ一時出船ヲ停ムルヿアルヘシ

第十八條　乘込人中傳染病者アルトキハ速ニ最寄警察署ヘ屆出ヘシ

第十九條　船内ニ遺留品アルトキハ其主分明ナルモノハ之ヲ還付シ然ラサルモノハ物品ヲ添テ警察署ヘ屆出スヘシ

第二十條　此規則ニ違背シタル者ハ違警罪ヲ以テ罰セラルヘシ

○警規第八號　明治十九年二月八日　桑名警察署

木曾揖斐兩川筋通航營業船舶檢査概目左ノ通決定セラル但詳細ノ方法ハ出張主任官ト協議ヲ遂クヘシ

右相達候事

木曾揖斐兩川筋通航營業船舶檢査概目

第一條　檢査ハ勸業課主任官及營業地所轄警察署ノ警部若クハ警部補立會ヒ之ヲ行フモノトス

第二條　檢査ハ其船舶ノ構造坪數腐朽ノ有無及ヒ通航川路ニ適スルヤ否ヲ檢シ且ツ乘客船ト荷積船トノ區分ヲ爲スモノトス

第三條　檢査ヲ了セシ船舶ニシテ規則ニ適應ノモノニハ其船体見易キ場所ニ(三改)ノ黑印ヲ付スヘキモノトス

○警規三十一號　明治十九年六月五日

桑名警察署

本年當縣甲第一號布達木曾揖斐兩川筋通船取締規則施行上愛知岐阜ノ兩縣ト別紙ノ事項ヲ協議決定シ直ニ實施相成候條此旨心得ヘシ

右相達候事

一甲管廳ニ於テ許可ヲ與ヘシモノハ乙管廳ニ於テ乙管廳ニ於テ許可セシモノハ甲管廳ニ於テ甲乙地互ヒニ營業スルヲ得セシムル事

但甲乙各管廳ニ於テ許可ヲ與ヘシトキハ互ヒニ其許可セシ年月日營業人ノ住所姓名等ヲ相通牒スル事

一乘客貨物ノ乘載及陸揚ケノ場所ハ各縣ニ於テ豫メ差支ナキ地ヲ指定シ其地ニ限リ許可ヲ與ヘ他ニ乘載及ヒ陸揚ケノ必要アルトキハ其時々所轄警察署ノ認可ヲ受ケシムル事

但指定ノ場所ハ各縣互ニ相通牒スル事

一第一項但書ノ通牒ハ岐阜縣ニ限リ乘客船ニノミ適用スル事

一第二項ニ揭ル乘載陸揚場所ハ岐阜縣管內ニ限リ乘客船

ニノミ適用シ其荷積船ハ何處ニ於テ乘載陸揚ケヲナスモ妨ケナシ

○三重縣令第二十九號　明治二十年三月十一日

船燈檣燈舷燈ハ府縣廳ノ檢査ヲ經其檢印アルモノニ非サレハ販賣スヘカラス

但明治十八年(八月)本縣甲第七十五號布達船燈取締規則ハ廢止ス

○三重縣訓令第六百八十九號　明治廿年五月三十日

沿海警察署

沿海分署

船燈信號器監査手續細目左之通相定ム

但從前ノ令達本文抵觸ノ分ハ廢止トス

船燈信號器監査手續細目

第一條　署長ハ署員ヲシテ部内繫泊ノ船舶ニ就キ船燈信號器ノ監査ヲ行ハシムヘシ

但西洋形船舶檢査規則ニ據リ檢査スヘキ船舶及甲板ナキ漁船小舟ハ此限ニアラス

第二條　監査官吏ハ定時(四月十月)又ハ臨時海上衝突豫防規則船燈信號器製造販賣規則明治十九年遞信省令第十二號同第十三號明治十四年第三十四號布告及後ニ指示スル雛形ニ依リ繫泊ノ船舶ハ船籍ノ自他ニ拘ハラス之レヲ監査シ合格ノモノヘハ甲號書式ニ從ヒ監査証書ヲ下付シ又ハ該証書欄内ニ加書押印スヘシ其不合格若クハ犯則ノ所爲アルモノハ右規則ニ照シ相當ノ處置ヲナシ速ニ其事由ヲ具シ警察本部ニ報告スヘシ

第三條　無檢印ノ船燈ヲ所持スルモノ其購入ノ年月監査手續施行以後ニ係ルトキハ之ヲ製造及販賣セシモノヽ住所氏名ヲ取糺シ警察本部ニ報告スヘシ

第四條　製造人確証ナキ發火信號器ヲ所持スルモノアルトキハ製器ノ適否ニ拘ハラス其確証アルモノト更換セシムヘシ

第五條　號角號鐘ノ尺度ハ本年遞信省告示第八號ニ據リ其音響ノ充分ニ達スルモノヲ要スヘシ

第六條　監査証書ハ第一回ヨリ第五回目ノ監査ヲ了ルマテハ各地方ヲ通シ該証書欄内ニ其都度監査官吏加書押印シ參照ノ便ニ供スヘシ

但定時監査ニシテ既ニ其監査ヲ經タル者ハ特ニ必要アルトキノ外監査ヲナスニ及ハス

第七條　定時監査ノ際既ニ第五回ノ監査ヲ了シ証書中加書押印スヘキ書欄盡キタルモノハ更ニ証書ヲ作リ引替下付スヘシ

第八條　監査ノ景況ハ乙號書式ノ監査表ヲ製シ一ケ年両度（五月十一月）ニ取纒メ警察本部ニ報告スヘシ

第九條　船燈信號器臺帳ヲ作リ監査証下付ノ都度其証書ニ掲クル事項ハ勿論下付ノ年月日等ヲモ記入シ調査ノ用ニ供スヘシ

第十條　監査官吏ハ船長若クハ重立タル海員ニ向テ海上衝突豫防規則ノ要件ヲ尋問シ若シ通曉セサル者アレハ懇篤ニ教示スヘシ

但船燈隔板碇泊燈火箭焔管號角號鐘信號旗ノ裝置若シクハ使用ヲ熟知セサルモノアレハ懇篤ニ之ヲ指示スヘシ

甲號

船燈信號器監査之證

監査回數	一回	二回	三回	四回	五回
監査年月日					

廳府縣監査員氏名印

船名

積　石（噸）

本船定繫場名

船主本籍氏名

船頭本籍氏名

舷燈種類及番號

船頭製造人氏名

舷燈白燈及隔板適否

發火信號器製造人氏名

火筒或八焰管適否

號角鐘及NG旗適否

改良之部分

記事

乙號

明治　年自　月船燈信號器監査報告書

至　月

警察署（又ハ分署）名印

監査	監査	船名	積高	本船	船主	船頭	船燈	舷燈	舷燈	發火	號角
月日	地名		定繫場名	氏名	氏名	氏名	製造人氏名	種類及番號	白燈及隔板適否	信號器製造人氏名	號鐘及NG旗適否

摘要

明治十四年八月改正

船燈製造方法

商務局

第一條　船燈ヲ大小形ニ分ツ

船燈ヲ分チテ大小形トス大形ハ二百噸以上ノ西洋形及ヒ千五百石以上ノ日本形船ニ供用シ小形ハ右噸石數未滿ノ船ニ供用スルモノトス

第二條　船燈全部ノ製作

船燈ハ玻璃及ヒ銅板或ハ鐵板ヲ用ヒテ堅固ニ之ヲ製造シ且其接合ノ部分ハ殊ニ密着シテ毫モ間隙ナカラシムヘシ

第三條　左右舷燈ノ射照方位

濫船及ヒ帆船ニ用フル右舷ニ標スヘキ綠燈及ヒ左舷ニ標スヘキ紅燈ハ常ニ不同ナク明亮ノ光ヲ發シテ羅盤ノ十方位ヲ照シ卽チ綠燈ハ船首ヨリ右舷紅燈ハ船首ヨリ左舷正横後ノ二方位迄光線ノ及フヘキモノニシテ且ツ晴天ノ暗夜ニ少クモ海上里數二里ノ距離ヨリ見ユヘキモノトス

第四條　全上燈籠ノ尺度

燈籠ノ後面及ヒ側面共ニ其幅大形ハ七寸五分小形ハ六寸ヨリ少ナカラス又其高サハ烟筒ヲ除キ大形ハ九寸二分小形ハ七寸五分ヨリ少ナカラス且烟筒ノ尺度大形ハ經四寸二分高四寸五分小形ハ徑二寸八分高三寸五分ヨリ少ナカラサルモノトス

第五條　全上玻璃ノ尺度

玻璃球ノ尺度ハ全圓ノ三分ノ一ヨリ少クナカラスシテ弦玻璃ノ中央ニ於テ端ヨリ端ニ至ル一直線ヲ云フニ於テ測ルニ大形ハ高四寸二分横六寸七分小形ハ高三寸五分横五寸分五ヨリ少ナカラサルモノトス

第六條　全上油壺及ヒ反射鏡ノ尺度

舷燈ニ用フル油壺ハ其點火口ノ廣サ大形ハ八分小形ハ六分ヨリ少ナカラス且火光ヲ助クル爲メノ反射鏡ハ之ニ對スル充分ノ大キサニシテ能ク反射シ得ヘキモノトス但シ

反射鏡ハ決シテ玻璃製ノモノヲ用フヘカラス

第七條　仝上風入口及風入管

舷燈ノ風入口ハ焰穗ノ勢ヲ充分ナラシム程ニ大ナラシメ且燈籠ノ隅ニ設クル風入管ノ高ハ點火口ノ高サト同寸タルヘシ

第八條　仝上玻璃ノ質

舷燈玻璃ハ厚サヨ不同ナク且其色透明ニメ曇リナキモノヲ撰ムヘシ尋常掛燈籠等ノ薄弱ニシテ厚サニ不同アルモノヲ用ヘカラス

第九條　仝上玻璃ノ種類

舷燈ノ玻璃球ハ第三圖(イ)ノ如キ凹形ノモノヲ通常多ク用フレトモ其光線ヲ衆合スルコトハ(ロ)(ハ)平凸形ノモノニ及ハス故ニ凹形玻璃ヲ用フル燈籠ニハ必ス其反射鏡ヲ設クルヲ法トス平凸玻璃ヲ裝置スル燈籠ハ其品位凹形ノモノモ

優等ニシテ光線ノ衆合充分ナルカ故ニ反射鏡ヲ設クルニ及ハス

舶來ノ舷燈タリトモ時トシテハ其價ヲ減センカ爲メ第三圖(ニ)ノ如ク全圓四分一ノ玻璃ヲ以テ製造セシモノアリ其方位甚不充分ニシテ元來合格ノモノニ非ラス故ニ(ホ)ノ如キ全圓三分一ノ玻璃ニアラサレハ用フヘカラス

第十條　檣燈ノ射照方法

漁船航海中ニ用フル檣燈ハ常ニ不同ナク白色明亮ノ光ヲ發シテ羅盤ノ二十方位ヲ照シ卽チ船首ヨリ左右正横後ノ二方位迄十方位ッヽ光線ノ及フヘキモノニシテ且晴天ノ暗夜ニ少クモ海上里數五里ノ距離ヨリ見ルヘキモノトス

第十一條　仝上燈籠ノ尺度

燈籠ノ前面ヨリ後面迄ノ幅大形ハ八寸三分小形ハ六寸二分又其側面ノ幅大形ハ八寸七分小形ハ六寸六分ヨリ少ナ

カルヘカラス

燈籠ノ高ハ烟筒ヲ除キ大形ハ一尺二寸一分小形ハ八寸三分ヨリ少ナカルヘカラス烟筒ノ尺度ハ大形ハ徑四寸二分高四寸二分小形ハ徑三寸三分高三寸七分ヨリ少ナカルヘカラス

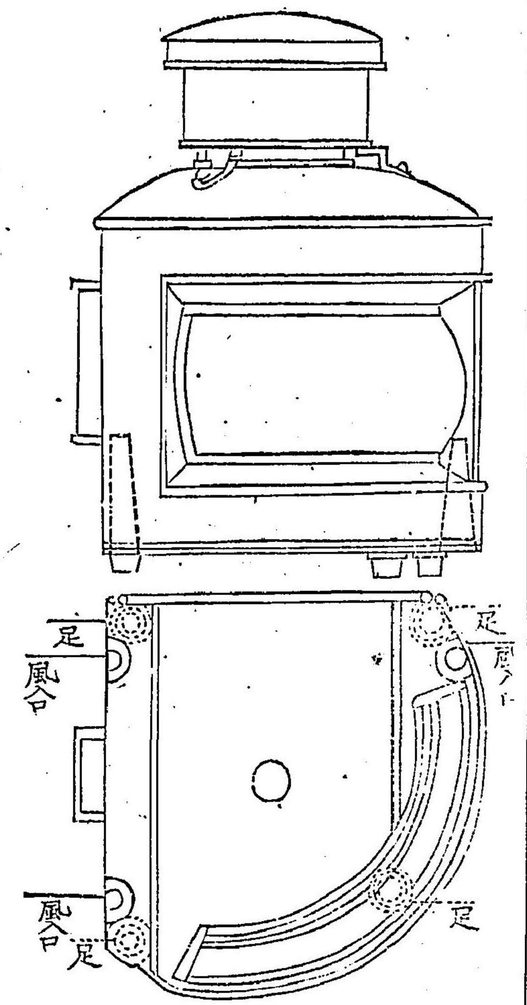
第十二條　仝上用玻璃ノ尺度

玻璃ノ尺度ハ其直徑大形ハ七寸三分小形ハ六寸以上ニシテ其高大形ハ五寸八分小形ハ四寸二分ヨリ少ナカルヘカラス

第十三條　仝上玻璃ノ質及ヒ影狀

玻璃ハ白色透明ニシテ全圓三分ノ二ヨリ少ナカラサルモノヲ用フヘシ且其形狀ハ第三圖㋑ニ示スモノヲ用フルヲ良トス㋺ニ示スモノハ火光充分ナラサルカ故ニ成丈ケ用フヘカラス

第一圖

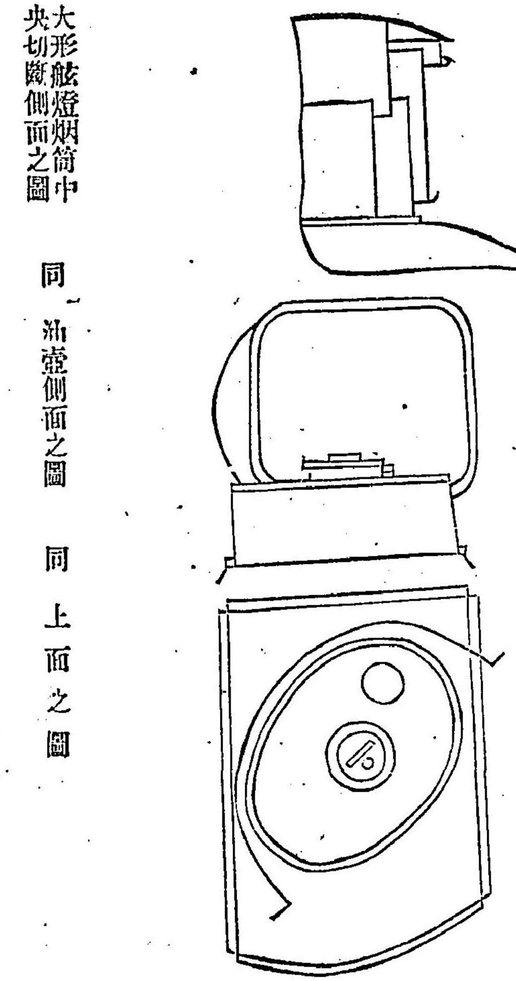


大形舷燈側面之圖

●河港門　船舶　同　中央切斷上面之圖

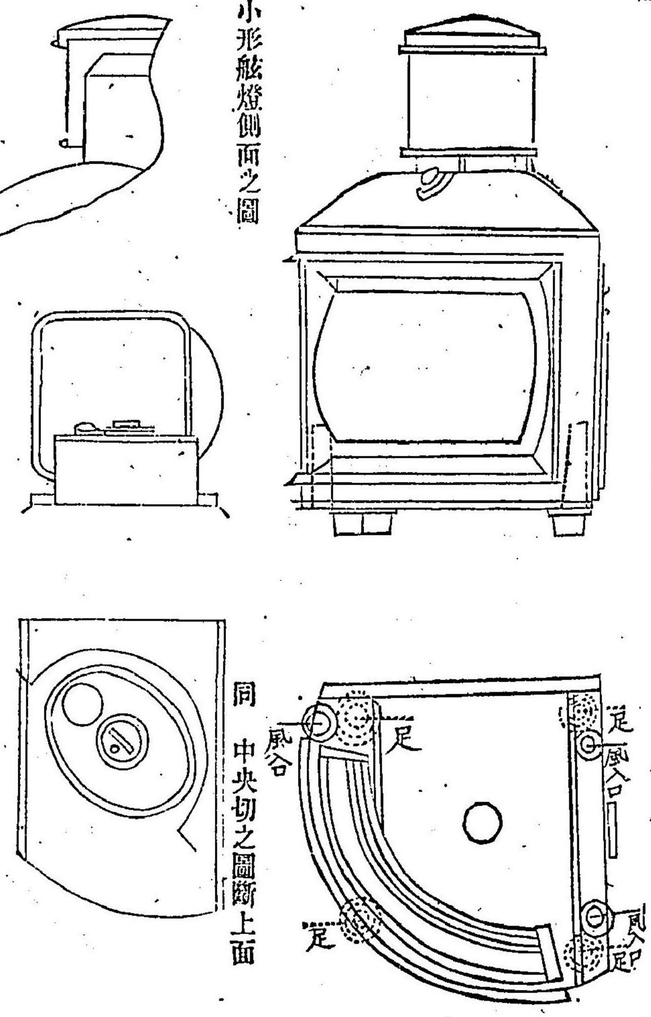
第十四條　仝上用油壺及ヒ反射鏡ノ尺度

油壺ハ其點火口ノ廣サ大形ハ一寸小形ハ八分ヨリ少ナカルヘカラス且火光ヲ助クル爲メノ反射鏡ハ其巾燈籠ノ後部ト粗ホ同一ニシテ決シテ玻璃製ノモノヲ用フヘカラス



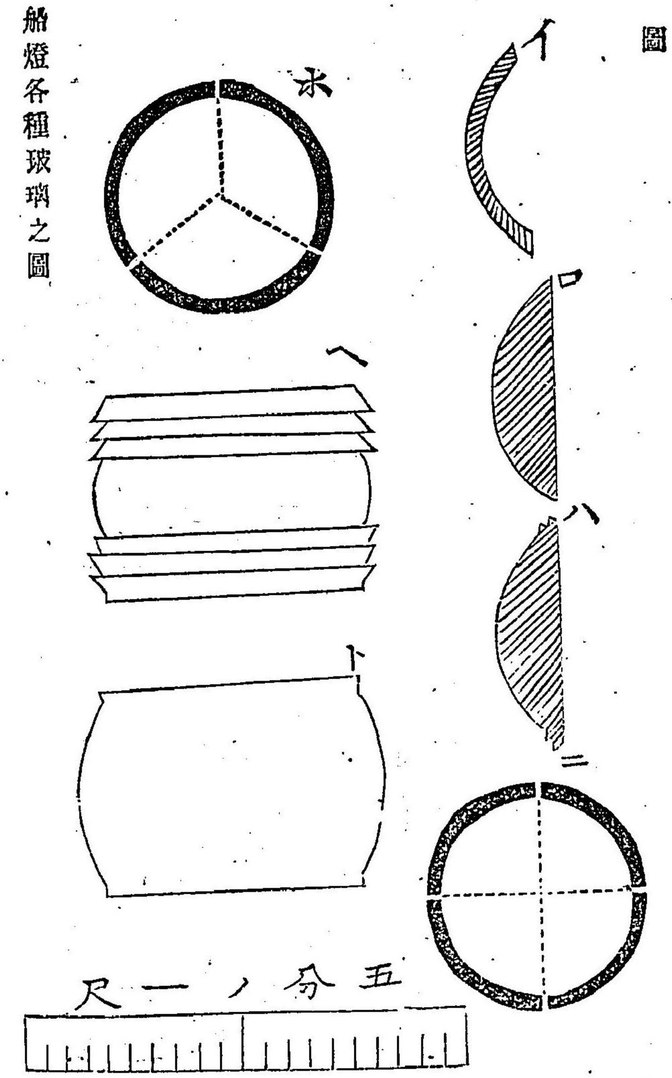
大形舷燈烟筒中央切斷側面之圖　同　油壺側面之圖　同　上面之圖

第二圖



小形舷燈烟筒中央切斷側面之圖　小形舷燈側面之圖　同　油壺側面之圖　同　上面之圖　同　中央切之圖斷上面

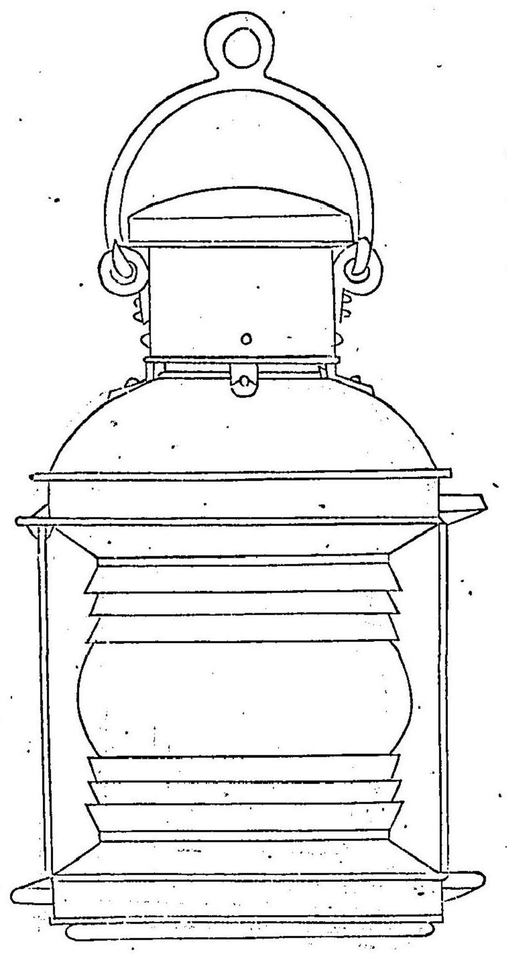
第三圖

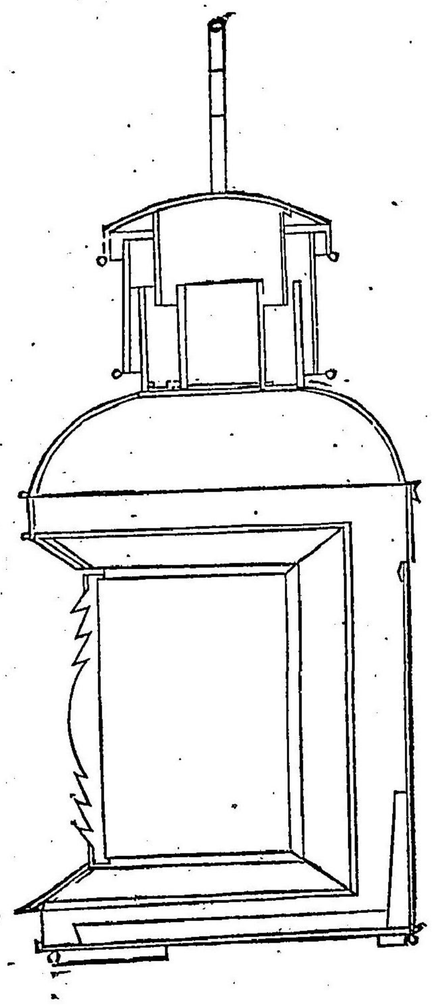


船燈各種玻璃之圖

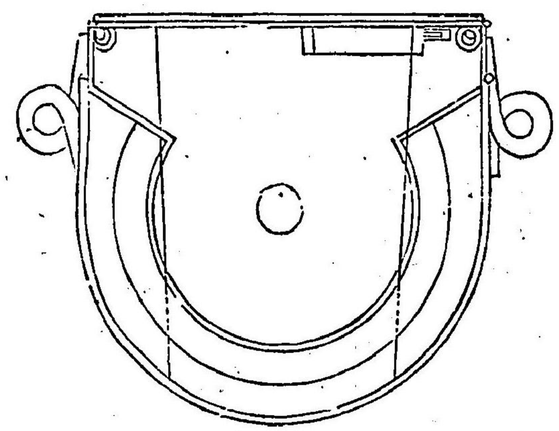
第四圖

大形檣燈正面之圖

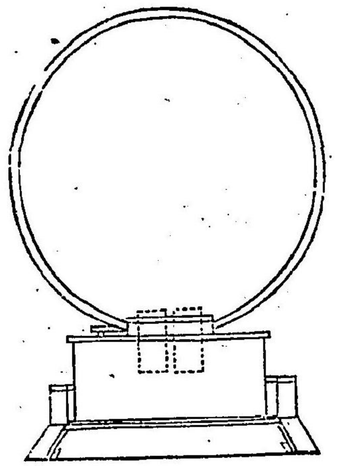




同中央切斷側面之圖



大檣燈中央切斷上面之圖



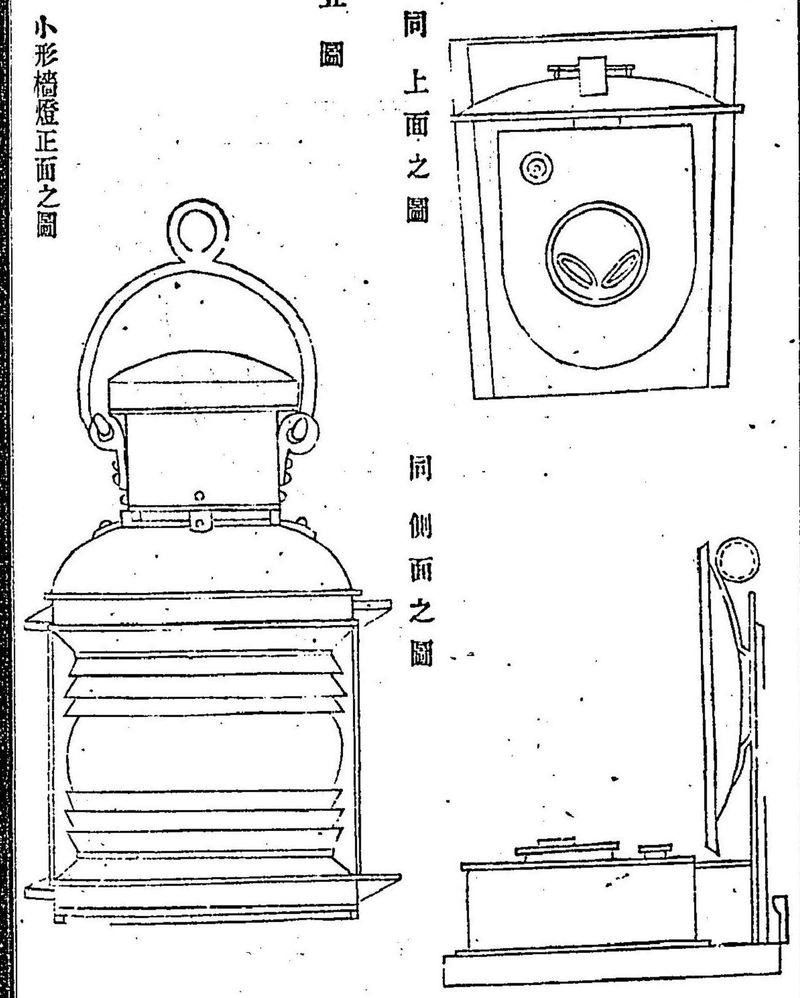
同油壺正面之圖

第五圖

小形檣燈正面之圖

同　上面之圖

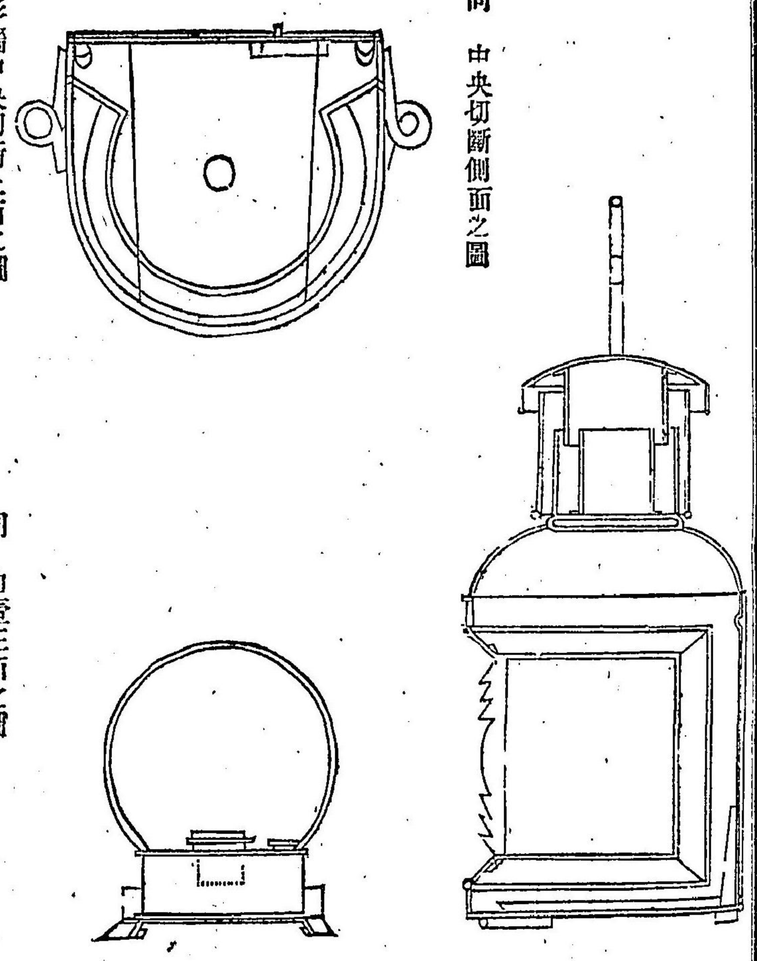
同　側面之圖



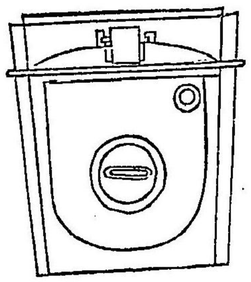
小形檣中央切斷上面之圖

同　中央切斷側面之圖

同　油壺正面之圖



同上面之圖

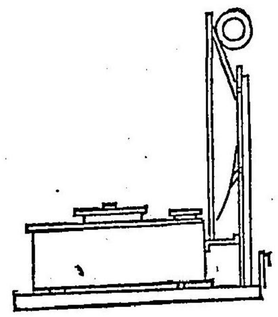


第一圖

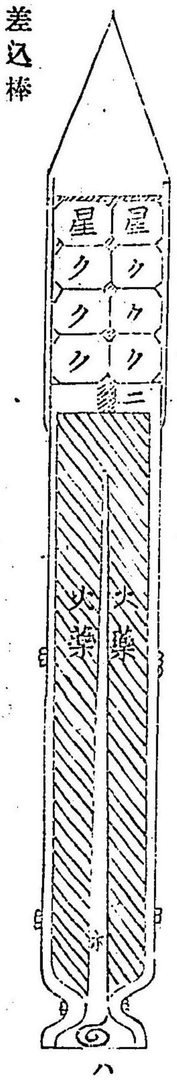
下圖ニ示ス「イ」ナル管ニ「ロ」ナル棒ヲ差込ミ火繩等ヲ以テ「ハ」ナル導火ニ点火シ火藥ニ移ルトキ空中ニ飛揚シ「ニ」ヨリ火ヲ引キ破烈スルトキ星火ヲ現ハス「ホ」ハ空管ニシテ火ヲ下ニ吹出ス爲ニ設ク

火箭

同側面之圖



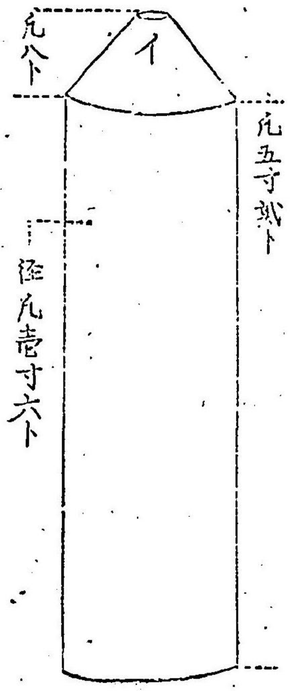
火箭中央切斷側面之圖



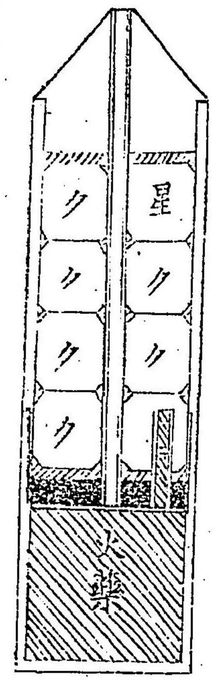
火箭差込棒

轟彈

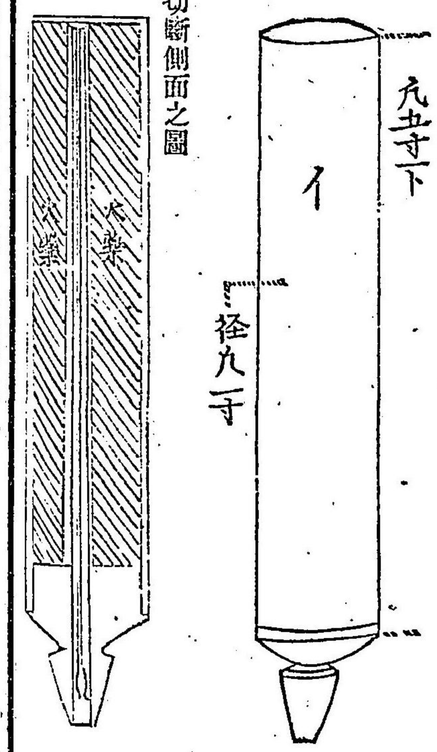
下圖ニ示ス轟彈ヲ第二圖ニ在ル轟彈打揚器「ホ」ナル中ヘ差込ミ「イ」ノ中心ヘ第二圖「ロ」ナル磨擦管ヲ差入「ハ」ナル紐ヲ引クトキハ磨擦管ヨリ發火シ打揚火藥ニ移リ空中ニ飛揚シ「ニ」ナル導火ヨリ破烈藥ニ移リ轟聲ト共ニ星火ヲ發ス



蕊彈中央切斷側面之圖



烟管



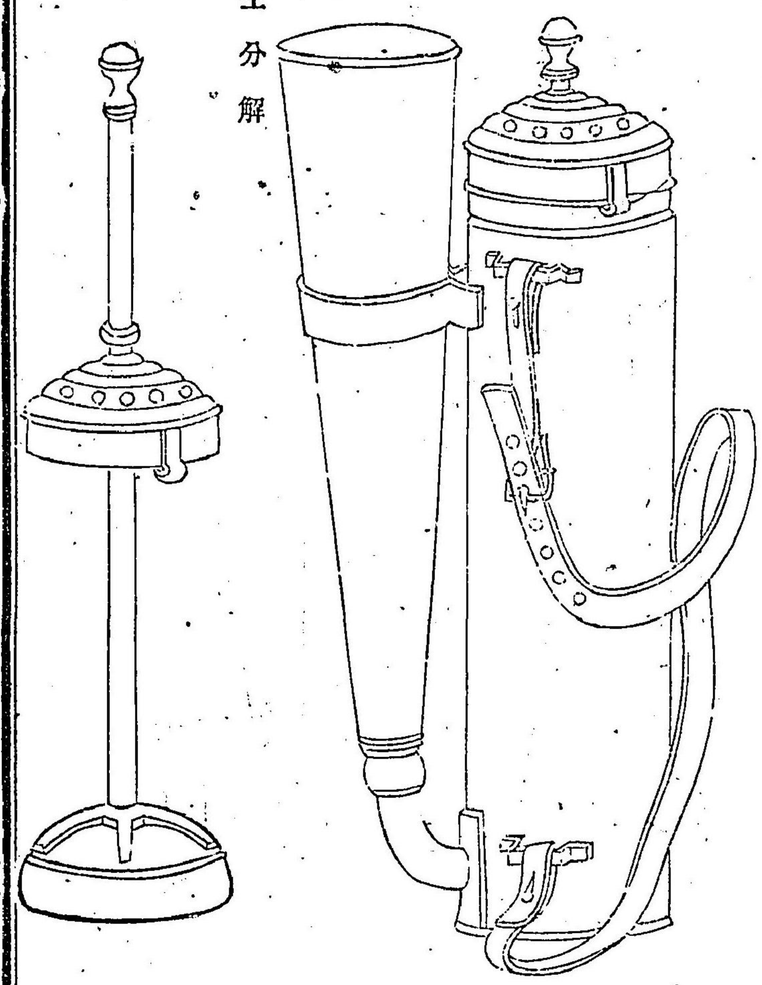
下圖ニ示ス「イ」ナル烟管ヲ第二圖「ロ」ナル所ニ挾ミ其柄ヲ持チタル儘下ニ出タル「ハ」ナル棒ヲ何レノ所ニテモ衝當ルトキハ「イ」ノ上端ヨリ發火シ火藥ニ移リ烟火ヲ發ス

焰管中央切斷側面之圖

號角

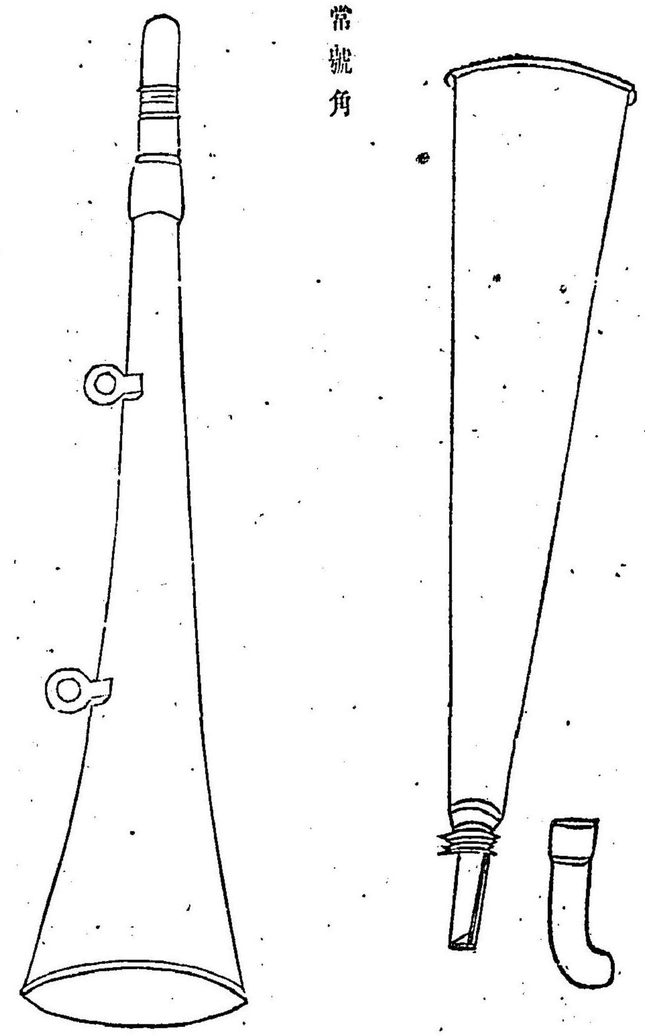
號角ハ其長壹尺三寸以上其徑三寸以上ノモノニシテ其音響ノ充分ニ達シ得ルモノトス

全分解



全分解

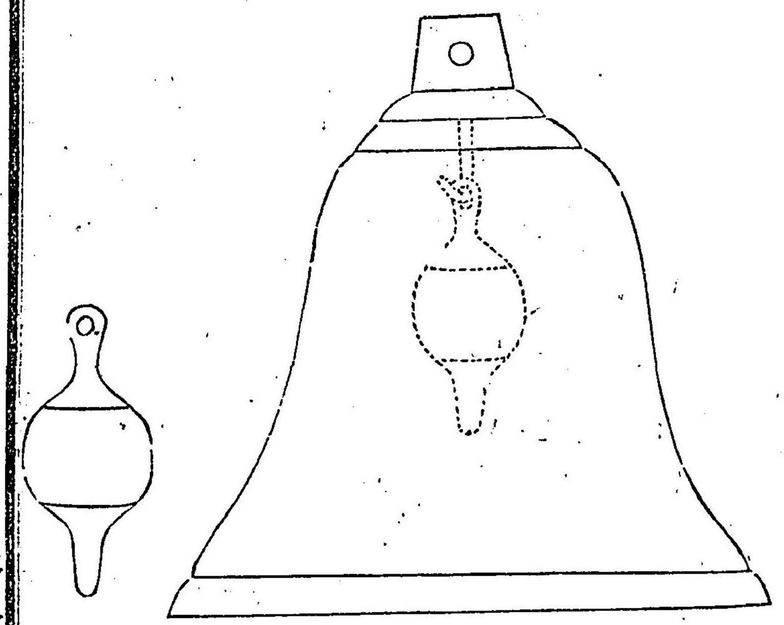
尋常號角



號鐘

號鐘ハ其徑六寸六分以上ノモノニシテ其音響ノ充分ニ達シ得ルモノトス

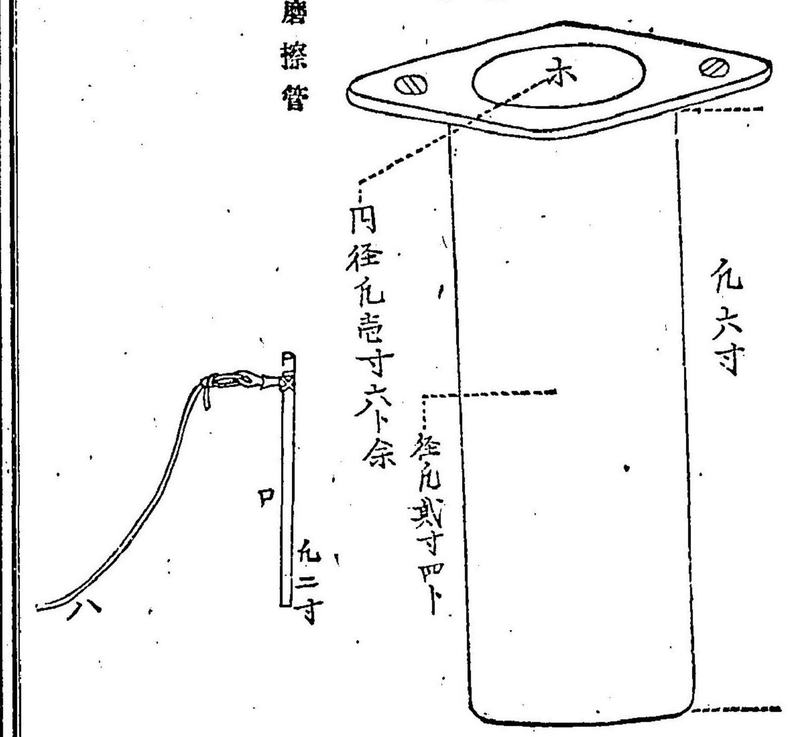
全振鉄



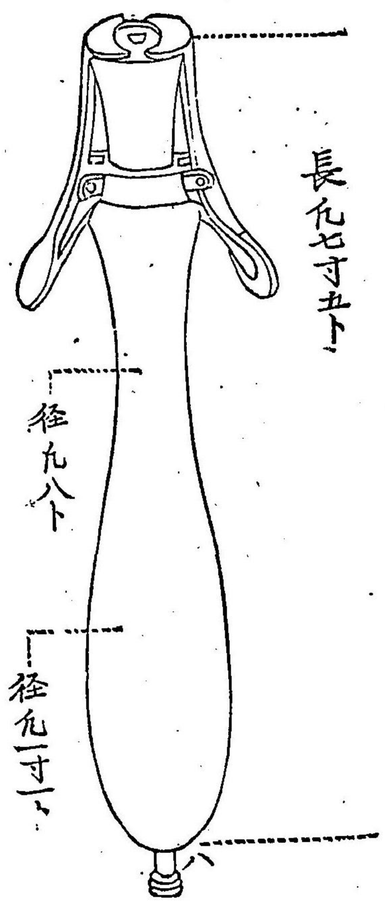
第二圖 雜彈打揚器

菱形
長四寸七分
平三寸

磨擦管



烟管挾



道路門

◎道路

○甲第九十一號　明治十七年十月一日

本年甲第五十六號布達假稱國縣道規則別紙之通改正來ル十一月一日ヨリ施行候條此旨布達候事

但本年ニ於テ大掃除一回施行スヘシ

假定國縣道掃除規則

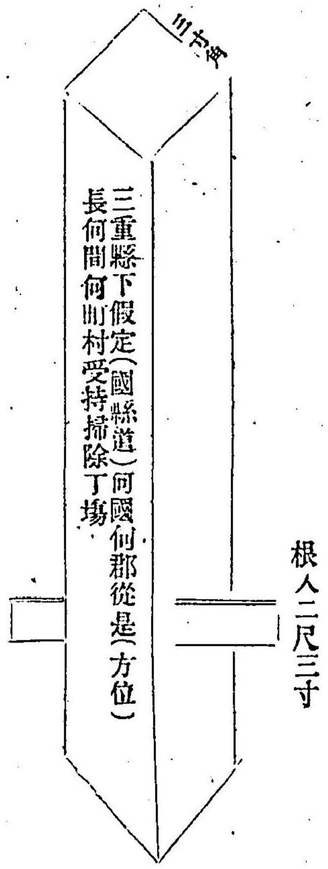
第一條　假定國縣道々路及ヒ橋梁等掃除ハ自今地元町村ノ負擔トス地元町村ニ於テハ負擔人ヲ定メ其氏名ハ所屬郡役所及警察署ヘ屆出ヘシ

但両側宅地ハ道路中心ヲ界トシ其宅地持主ニ於負擔スヘシ片側宅地ハ其全幅ヲ宅地持主ノ負擔トス尤市街掃除規則施行ノ地ハ其規則ニ依ルヘシ

第二條　各町村受持境界ヘ左ノ標杭宅地前ノ町村ヲ除ク ヲ建設ス

ヘシ

地上ヨリ長三尺木種適宜



根人二尺三寸

第三條　掃除ヲ分ツテ道常臨時大掃除ノ三種トス

第四條　通常掃除ハ毎月一度ト定メ大掃除アル月ヲ除ク道路橋梁等ヲ清潔ナラシムルモノトシ掃除負擔者ニ於テ履行スヘシ

第五條　臨時掃除ハ暴風雨雪ノ后ヲ掃除負擔者ニ於テ履行スヘシ

第六條　大掃除ハ春秋雨度負擔町村(宅地前ノ町ニ於テ一戸ニ付十五年未滿六十年以上ノ戸主及女戸主ニ一人宛出夫スヘキ男子ナキモノヲ除ク)ヲ除ク

夫道路ノ凸凹或ハ水溜リ車堀レ等ノ小破修繕及溝渠汚泥塵芥等ヲ浚去シ掃除負擔者ヲ補助スヘシ

第七條　通常及大掃除ノ日割ハ所轄郡役所ノ達ニヨルヘシ

第八條　掃除施行ノ際ハ戸長ニ於テ監督シ所轄警察署若シクハ分署ヘ屆出ツシ

第九條　掃除負擔者ハ前條々ノ外左ノ諸項ヲ履行スヘシ

一並木生育ニ注意シ枯損木等アル時ハ速ニ戸長役場ヘ報告スルヿ

一通路ニ障碍物或ハ汚穢物アルトキハ速ニ取除クヿ

一通行スヘキ場合ニアル危險ノ井溝其他凹所ニ蓋又ハ防囲等ヲ速ニナスヿ

但本項ノ費用ハ調査ノ上下附スルヿアルヘシ

一暴風雨雪ノ時ハ速ニ受持丁場ヲ見廻リ倒木等通行ノ障碍ヲナスモノハ假リニ通路ヲ開キ置速ニ戸長役場ヘ報告スルヿ

但仝上

第十條　並樹敷ニ生スル芝草或ハ落葉等ハ地元町村適宜處分ニ任ス

但道路ニ厠ヲ設クル者ハ其名ヲ著シ置平日掃除ノ責ニ任スヘキモノトス尤其収得ハ本項ニ準ス

附甲第百七號　明治十八年十二月廿三日（本文ハ營業ノ部ニ在リ）

一假定國縣道掃除規則明治十七年甲第第一條第八條ノ屆

右ノ屆ハ分署部内ノモノハ分署ヘ差出スヘシ

○乙第二百廿八號　明治十七年十月一日

郡役所

本年乙第百四十三號達仮稱國縣道掃除取扱手續左ノ通改正來ル十一月一日ヨリ施行スヘシ此旨相達候事

仮定國縣道掃除取扱手續

仮定國縣道々路橋梁等掃除ハ本年甲第九十一號布達ノ如ク其町村ノ負擔ト雖モ通常及大掃除ノ日割ヲ定メ關係町村ヘ示達ノ上縣廳ヘ報告シ且大掃除ノ際ハ其翌日或ハ翌々日迄ニ郡吏ヲシテ實地監査ヲナサシメ通常及臨時掃除ノ際ハ適宜ノ方法ヲ設ケ監査スヘシ

○三重縣令第四十九號　明治二十年六月十日

街路取締規則

第一章　通則

第一條　街路ト稱スルハ道敷及道敷ニ沿フタル下水並ニ橋梁トス

第二條　本則ハ市街ノ道路ニ適用スヘキモノトス

但其場所ハ別ニ之ヲ告示ス

第三條　本則ニ於テ自費ヲ以テ爲スヘキ義務ヲ怠ルトキハ官ニ於テ之ヲ執行シ其費用ヲ徵收スヘシ

第二章　街路ノ安寧及保存

第四條　街路ニ建物軒擔旗柱招牌物干等ヲ設ケ或ハ出スヘカラス

第五條　左ノ諸件ニ係ルモノハ街路ニ出スコトヲ得ヘキモノトス

一　釣看板ハ地盤ヲ距ル一丈以上ニ限リ二尺以內

二　軒檐ハ地盤ヲ距ル九尺以上ハ二尺六尺以上ハ一尺五寸以內

三　日除ハ支柱ヲ用ヒス地盤ヲ距ル七尺以上ニ限リ二尺以內

四　掲燈ハ地盤ヲ距ル六尺以上ニ限リ一尺以內

五　一時門松綠門ヲ建ツルモノハ道幅九尺以上ノ場所ニ限リ二尺以內

第六條　左ノ事項ハ其場ノ圖面ヲ添ヘ警察署又ハ分署ニ願出免許ヲ受クヘシ

一　街路ニ床店葭簀張火番小屋ヲ設クルヿ

二　街路ニ樹木ヲ植ヘ或ハ火見梯又ハ街路若クハ側ヲ建ルヿ

三　街路ニ柵欄支柱ヲ設ケ又ハ齒止石ヲ置クヿ

四　街路ニ華表碑及指道標其他公衆ノ用ニ供スル標識ヲ建設スルヿ

五　街路ニ目塗土置場ヲ設ルヿ

六　工事ノタメ一時街路ニ竹木土石類ヲ置キ或ハ板圍繩張足代ヲ設ケ其他街路ヲ使用スルヿ

七　街路ヲ經テ建物ヲ移シ又ハ街路ヲ壅塞スヘキ長大

ノ物件ヲ運搬スルヿ

八　一時街路ニ舞臺(神佛祭典等ノ節)小屋掛(歳市草市等ノ節及店飾ヲ設クルヿ

九　街路ニ神輿山車又ハ手踊屋臺ヲ出スヿ

十　神佛送迎ノタメ街路ニ飾物ヲ出シ又奉納物ヲ牛車ニテ運搬スルヿ

十一　街路ニ消防其他公衆ノ用ニ供スル物件ヲ置クヿ

十二　工事ノタメ一時通行ヲ停止スルヿ

十三　車馬通行停止ノ榜示アル場所ニ車馬ヲ出入スルヿ

十四　街路ニ魚市青物市場等ヲ開クヿ

十五　祭典ノタメ幟或ハ札ヲ建テ提灯杭ヲ建ツモノ

第七條　街路ヲ使用シ之ヲ毀損シタルトキハ直ニ原形ニ復スヘシ

第八條　街路ニ出クル軒擔ヘハ軒樋及竪樋ヲ設クヘシ其竪樋ハ街路ノ地盤ニ設クルヿヲ得ヲ但擔溜ノ下水ニ落ツルモノハ此限ニアラス

第九條　街路ニ沿フタル宅地ニシテ興行九尺以上ノ空地アル場所ハ其摸標ニヨリ道敷境界ニ墻塀ヲ設クヘシ

第十條　街路ニ沿フタル場所ニ竹木ヲ立置クトキハ鉄鎖其他强靱アル繩索ヲ以テ之ヲ繩束シ又薪炭其他ノ物件ヲ堆積スルモノハ顛仆セサル樣堅牢ノ裝置ヲナスヘシ

第十一條　街路ニ沿フタル建設物及樹木崩壞顛仆ノ虞アルモノハ速ニ修理撤却若クハ扶植伐採スヘシ

第十二條　街路ニ竹木土石類ヲ置クトキハ標識ヲ設クヘシ

第十三條　運搬中ノ建物若クハ長大ノ物件ヲ夜中街路ニ停メ置クトキハ路傍ニ片寄セ標燈若クハ相當ノ標識ヲ

立ツヘシ

第十四條　街路ノ井戸ニシテ通行ノ妨害トナルモノハ地並ニ堅牢ナル蓋ヲ以テ覆ハシメ又ハ之ヲ塡塞セシムヘシ

第十五條　逝路橋梁溝渠下水ヲ毀損壅塞シ街路ノ樹木ヲ伐採シ又ハ街燈ヲ破毀消滅スヘカラス

第十六條　制札指道標便所及墻壁等ヲ毀棄汚損シ又ハ樂書貼紙ヲナスヘカラス

第十七條　街路ニ家畜ヲ放置シ通行ノ妨害ヲナスヘカラス

第十八條　街路ニ商品薪炭荷車其他ノ物件ヲ排列シ又ハ出シ置クヘカラス

第十九條　街路ニ於テ荷造其他ノ作業ヲナシ又ハ爲サシムヘカラス

第廿條　街路ニ於テ火器ヲ弄シ又ハ焚火ヲナスヘカラス

第廿一條　街路ニ於テ濫リニ放歌シ若クハ喧噪シ高聲ヲ發シ又ハ偃臥スヘカラス

第廿二條　街路ニ於テハ警察署又ハ分署ヨリ指定シタル區域ノ外露店屋臺店ヲ出スヘカラス

第廿三條　行商ニ用ユル荷車ハ長サ八尺巾三尺屋臺店ハ長サ六尺巾三尺ヲ超過スヘカラス

第三章　街路ノ清潔

第廿四條　街路ノ掃除ハ左ノ區別ニ依リ負擔スヘシ

一　道路ノ中央ヲ分界トシ兩側ノ地主ニテ負擔シ片側ノ塲所ハ其全幅ヲ負擔スヘシ

二　橋梁ハ其所在ノ町村ニ於テ負擔スヘシ

三　大下水該町村ノ全部又ハ幾部ノ惡及横切下水道路切モノハ水ヲ疏通スルモノヲ云フ横切モノハ其町村ニ於テ負擔シ其他宅地沿ヒノ下水

ハ其地主ニ於テ負擔スヘシ

四　街路ニアル厠ハ其持主ニ於テ負擔スヘシ

第廿五條　前條負擔者ハ其近傍ニ於テ掃除擔當人ヲ設ケ警察署又ハ分署ニ屆出ツヘシ但其宅地内ニ居住スルモノハ此限ニアラス

第廿六條　街路ハ常ニ清潔ニ掃除ヲナシ塵芥雜草ヲ存スヘカラス

第廿七條　街路ノ積雪ハ午前第八時迄ニ掃除スヘシ但午前八時后日沒迄ノ降雪ハ降歇后直ニ掃除スヘシ

第廿八條　掃除シタル雪ハ河海其他妨害トナラサル場所ニ投棄スヘシ

第廿九條　炎天及風日ニハ時々街路ニ淨水洒クヘシ但冬季ハ風日ト雖午前九時前午后三時后ハ水ヲ洒クヘカラス

第卅條　汚水ヲ街路ニ洒注スヘカラス

第卅一條　下水ハ平常疏通シ及毎年二回以上寒冷ノ候ニ於テ浚渫スヘシ其浚揚ケタル淤泥塵芥等ハ一定ノ場所ニ運搬シ之ヲ街路ニ布キ又ハ路傍ニ留置クヘカラス

但期日及運搬スヘキ場所ハ郡役所ヨリ達示スヘシ

第卅二條　街路ニアル場所ハ常ニ清潔ニ掃除シ若シ破損等アルトキハ修繕スヘシ

但掃除擔當人ノ住所氏名ヲ記シタル標札ヲ掲示スヘシ

第卅三條　街路ニ沿フタル場所ニ便所ヲ設ケントスルトキハ警察署又ハ分署ニ屆出認可ヲ受クヘシ

第卅四條　街路ニ於テ便所ニアラサル場所ニ大小便ヲナシ又ハナサシムヘカラス

第卅五條　糞尿其他腐敗物ハ器物ニ蓋ヲナサスシテ街路

ヲ運搬スヘカラス

第廿六條　街路ニ於テ敷物疊穀類　他塵埃ヲ掃フヘカラス

第廿七條　凍氷瓦礫及禽獸ノ死屍若クハ汚穢物ヲ街道ニ棄抛スヘカラス

第廿八條　街路ヲ運搬スル物品ハ墜落漏出又ハ飛散セシムヘカラス

第廿九條　街路ニ臨ミタル屋根物干又ハ窓手摺等ニ檀樓其他見苦敷若クハ危險ナル物品ヲ置クヘカラス

第第章　街路ノ通行

第四十條　牛馬及諸車ハ夜中燈火ナクシテ疾驅スヘカラス

第四十一條　車ハ小兒車ヲ除クノ外其種類ノ如何ヲ問ハス跡押ノミニテ運轉スヘカラス

第四十二條　末口ノ尖リタル竹木等ヲ運搬スル片ハ其末口ヲ繩束スヘシ

第四十三條　牛馬諸車ハ車馬道ノ設ケアル地ハ左側其設ケナキ地ハ中央ヲ通行スヘシ

第四十四條　牛馬諸車ヲ並ヘ輓キ又ハ濫リニ疾驅シテ通行ノ妨害ヲナスヘカラス

第四十五條　車二輛以上ヲ連繫シテ輓クヘカラス

但長大ノ物件ヲ運搬スルタメ數輛ヲ連結スルハ此限ニアラス

第四十六條　牛馬二頭以上ヲ連繫シテ牽クヘカラス

但賣買等ノタメ輸送スル牛馬ハ此限ニアラス

第四十七條　車馬及歩行者行逢フ片ハ互ニ左ニ避ケ軍隊並ニ砲車輜重車ニ對シテハ右ニ避クヘシ

第四十八條　實車ニ對シテハ空車之ヲ避ケ坂路ハ上リ車

又ハ空車ニ於テ避讓スヘシ

第四十九條　前車徐行シ后車疾行セントスルトキハ后車ヨリ懸ケ聲車ヲナシ前車ハ左ニ避ケ后車ハ右ヲ通過スヘシ

第五十條　郵便用ニ供スル行馬及灌水車又ハ葬送其他公式ノ行車ニ逢フトキハ避讓スヘシ

第五十一條　往來雜沓又ハ狹隘ノ場所街角橋上ヲ通行スル車馬ハ徐行シ且掛聲ヲナスヘシ

第五十二條　車馬街角ヲ通行スルトキハ右ハ大廻リヲナシ左ハ小廻リヲナスヘシ

第五十三條　牛馬諸車其他ノ物件ヲ道路ニ横フヘカラス

第五十四條　制止ヲ肯セスシテ出火場其他雜沓ノ場所ニ牛馬諸車ヲ牽入ルヘカス

第五十五條　街角橋上其他往來ノ妨害トナルヘキ場所ニ牛馬諸車ヲ駐止スヘカラス

第五十六條　街路ニ佇立シ又ハ空車ヲ輓テ彷徨シ通行ノ妨害ヲナスヘカラス

第五十七條　街路ニ於テ犬其他ノ獸類ヲ嗾シ又ハ驚逸セシメ若クハ殘虐ニ取扱フヘカラス

第五十八條　街路ニ於テ看護人ナク五年未滿ノ小兒ヲ遊歩セシメ又ハ遊戯ヲナサシムヘカラス

第五十九條　街路ニ於テ紙鳶ヲ揚ケ又ハ獨樂羽子手毬等ヲ弄シ若クハ其他ノ遊戯ヲナシ行人ノ妨害ヲナスヘカラス

第六十條　街路ニ於テ軍談輕業其他人寄ヲナスヘカラス

第六十一條　人道車馬道ノ區別アル場所ニ在テハ牛馬諸車ヲ人道ニ牽入レ又ハ濫リニ車馬道ヲ歩行スヘカラス

但人道ニ於テ小兒車ヲ推シ又ハ居住者ニシテ牛馬及空

車ヲ其地内ニ出入シ若クハ許可ヲ受ケ地盤ニ相當ノ構造ヲナシテ實車ヲ出入スルモノハ此限ニアラス

第五章　罰則

第六十二條　第六條第拾二條第拾三條第拾五條第拾六條第拾七條第二拾一條第二拾二條第二拾三條第二拾四條第二拾六條第二拾七條第二拾八條第二拾九條第三拾一條第三拾二條第三拾三條第三拾四條第三拾五條第三拾七條第三拾八條第三拾九條第四拾條第四拾二條第四拾三條第四拾四條第四拾五條第四拾六條第四拾七條第四拾八條第四拾九條第五拾條第五拾一條第五拾二條第五拾三條第五拾四條第五拾五條第五拾六條第五拾七條第五拾九條第六拾條第六拾一條ニ違背シタル者ハ違警罪ノ刑ニ處セラルヘシ第四條第拾八條第拾九條第三拾六條第四拾一條第五拾八條ニ違ヒ制止ヲ肯セス第七條第八條第九條第拾條第拾一條第二拾五條ニ違ヒ督促ニ從ハサル者亦同シ

但刑法ニ正條アル者ハ其本法ニ從フ

附則

一本則ハ明治二十年八月一日ヨリ施行ス

一從來ノ規則ニ依リ允許ヲ受タル者ハ本則施行ノ日ヨリ卅日以内ニ更ニ願出テ允許ヲ受クヘシ

一第廿三條ノ制限ニ適セスト雖モ本則施行前ニ製造セシ分ハ六ケ月限リ使用スルヲ得

一從前ノ令達本文ニ抵觸スル分ハ本文施行ノ日ヨリ廢止ス

○三重縣令第五十三號　明治二十年六月十日

街路取締規則中左記ノ第一項ハ國道仮定縣道第二項ハ右道路ニ沿ヒ連擔櫛比セシ町村及荒野相可桑名郡長島ノ各町

村道路ニモ亦之ヲ適用ス

但從前ノ令達本文抵觸ノ分ハ廢止トス

第一項

規則第六條第七條第十三條第卅二條第卅六條第卅八條第四拾條乃至第五拾一條第五拾三條乃至第五十七條

第二項

規則第一條第三條乃至第七條第廿四條乃至第廿八條第卅一條乃至第卅四條第卅六條乃至第五拾九條

○三重縣告示第七十五號　明治二十年六月十日

街路取締規則第二條但書ニ依リ其施行ノ場所左ノ通相定ム

津　四日市　桑名　神戸　亀山　關中町　一身田

松坂　久居　宇治（伊賀）上野　名張　鳥羽

以上市街ト接續連搨ノ町村

○三重縣訓令第七百八十號　明治二十年六月二十七日

警察署

分署

街路取締手續左ノ通相定ム

但從前ノ令達本文抵觸ノ分ハ廢止トス

街路取締手續

第一條　街路使用ヲ出願スルトキハ實地調査ヲ遂ケ街燈火見梯則ノ建設樹木ノ栽植ハ許否ノ意見ヲ具シ本部長ニ伺出其他ハ署限リ左ノ項々ニ依リ許否スヘシ

一通行ノ妨害若クハ危險ノ虞アヲカ又ハ見苦敷等ノモノハ許スヘカラス

一指置標其他トモ保存若クハ撤却ノ方法備ハリ且其責任者アルニアラサレハ許スヘカラス

三車馬通行停止ノ場所ニ車馬ノ出入ヲ許シタルトキハ、左

ノ証ヲ與フヘシ

用紙厚紙　竪三寸五分　横二寸五分

何郡町村番屋敷住

何之誰

表

右何郡町村何道字何所車馬通行事

停止ノ場所ニ車馬ヲ出入スルヿ

ヲ許ス

明治　年月　日　某署印

四通行停止ヲ願出クルトキハ可成道路ヲ閉塞セサル樣注意ヲ加ヘキハ勿論往來ノ頻繁ナル場所ノ如キハ其一部ヲ停止シ一部ヲ通行セシメ或ハ郵便馬車及空車ニ限リ通過セシムル等ノ手續ヲナスヘシ

但公道ニ係ル通行止ハ土木監督區署又ハ郡役所ヨリ照會スルヿアルヘシ且亦其停止札ニハ左記ノ例ニ依リ書式ヲ示シ其願人若クハ官衙ニ記載掲示セシムヘシ

（右側）　（左側）

（車馬）通行停止　某署

但郵便車馬及空車馬ハ此限ニアラス

五通行停止願ヲ許シタルトキハ其事實ヲ詳細ニ記載シ直ニ本部第二課ニ報知スヘシ

第二條　規則ニ依リ爲スヘキ義務ヲ怠リ又ハ爲スヘカラサル事ヲナス者ハ懇篤說諭ヲ加ヘ若クハ制止或ハ督促スヘシト雖モ仍ホ某命ニ從ハサルニ於テハ急速ニ執行ヲ要スル（例ヘハ洒水除雪若クハ危險ノ井溝等ヘ蓋又ハ防圍ヲ設ケ或ハ禽獸ノ死屍取除等ノ如キモノ）モノハ直ニ之ヲ執行シ其費用ハ豫テ定メ置キタル負擔者ヨリ追徵スヘシ但本文ノ場合ニ於テハ其事由ヲ具シ本部長ニ報告スヘシ

第三條　邸宅ノ門前若クハ商家ノ店頭等ニ特ニ設ケタル空地ニシテ別ニ市街ノ体裁ヲ損スルニ至ラサルモノヽ外往來交通ノ頻繁ナル連檐櫛比ノ街路沿ヒニシテ相當建物ノ存スヘキ場所ハ規則第九條ニ依リ街路トノ境界ニ墻塀ヲ設ケ軒並ノ体裁ヲ整ヘシムヘシ

第四條　街路ノ井戸ハ他ニ堀換スルヿヲ得サルモノ及ヒ通行ノ妨害トナラサルモノヽ外可成之ヲ塡塞シ若クハ地並ニ堅牢安全ナル蓋ヲ設ケ其上ヲ通行スルヲ得セシムヘシ

第五條　荷作木挽其他ノ諸作業ハ濫リニ路上ニ於テ之ヲ行フヿハ通行ノ妨害若クハ危險ノ虞少ナカラス且ツ下駄直シ等ノ如キハ見苦敷ヲ以テ本宅地内ニ於テ之ヲナスカ若クハ其他相當ノ私有地ヲ求メシムヘシ

第六條　規則支配外ノ道路ト雖掃除其他相當ノ取締ヲナスヘシ

附則

一　署長ハ此際施行ノ方法順序ヲ一定シ處置上異同ナカラシムヘシ

○三重縣令第八十五號　明治二十年十月十八日

從來荷車ノ後尾ヘ摺木ト唱フルモノヲ附着シ或ハ故ラニ荷臺木ヲ延シ摺木ノ代用ヲ爲ス等道路ノ障害不勘ニ付自今右等ノ所爲ハ渾テ相成ラス

但摺木ノ代用ニ丸木ノ横木ヲ附着スルモノハ此限ニアラス

○

◎橋梁渡津

○乙第六十五號　明治十三年四月廿九日

郡役所

人民私製ヲ以テ架設ノ橋梁渡津自今軍隊々伍ヲ組ミ行進之節ハ其賃錢請求不相成旨今般内務省ヨリ被相達候條右架橋渡船場等之關係人ヘ無漏可相達此旨相達候事

但縣廳ニ於テ直轄人民ヘ受負申付有之分モ本文同樣可相心得候事

戸長役場

明治十五年一月十日

○甲第二號

郡役所

戸長役場

民人私費ヲ以テ架設ノ橋梁渡津及其私費開鑿之道路等憲兵巡行之節ハ單騎獨歩ト雖モ制服着用之節ニ限リ其賃錢請求不相成候旨今般内務卿ヨリ被達候條此布達候事

○乙第二百二十四號

明治十五年十二月二十七日

郡役所

戸長役場

人民私費ヲ以テ開設シタル橋梁渡津及道路等電信配達人特ニ配達人タルヲ証スル服ヲ着シ配達スルトキ ノ時ニ限リ賃錢請求不相成旨内務卿ヨリ被達候ニ付兼テ許可有之橋梁渡船及開路願人共ヘ無漏可相達此旨相達候事

○乙第百十二號

明治十六年七月廿六日

郡役所

戸長役場

人民私費ヲ以テ架設ノ橋梁渡津及私費開鑿ノ道路等郵便脚夫ノ飛信遞送並ニ郵便物遞送集配特ニ配達人タルヲ証スル服ヲ着シ配達スルノ時ニ限リ賃錢請求不相成旨客年三月本縣乙第七十五號ヲ以テ相達置候處自今郵便局ヨリ左ノ如キ印鑑相渡置キ候條右所持ノ者ハ制服ノ着否ニ拘ハラス賃錢請求不相成旨内務省ヨリ被達候因テ此旨兎許人共ヘ遺漏ナク達シ置ヘシ此旨相達候事

二寸五分

第號
何國
○何地郵便局脚夫
何之誰

○明治十六年月日
何國何北郵便局

此印ハ管テ驛遞局ヨリ各郵便局ヘ渡シアル局印

○乙第三十八號　明治十九年三月六日

郡役所
警察署
戸長役場

人民私費ヲ以テ架設シタル橋梁渡津等ニ於テハ府縣自他ノ別ナク持區内外ヲ問ハス警部巡査制服着用及看守押丁囚人護送ノ節ニ限リ其囚人一同賃錢請不相成候條右徴費者ヘハ戸長役場ヨリ申達スヘシ

右相達候事

○

◎道路橋梁ニ關スル雜件

○三重縣令第十八條　明治十九年十一月廿六日

明治十六年(七月)本縣甲六十九號布達土木取扱條例左之通改正ス

土木條例

第一章　通則

第一條　土木ノ工事ハ常式臨時ノ二種トス

第二條　常式普請ハ毎年十二月中臨時普請ハ其都度二十日以内ニ願出ツヘシ

但工事ノ模樣ニ依リ出願ノ有無ニ拘ハラス之ヲ施行スルヿアルヘシ

明治二十年縣令第三十三號ヲ以改正

第三條　新規起工ハ明治十八年(十一月)甲第九十五號布達ニ據リ願出ツヘシ

第四條　地方税若クハ其町村人民ノ寄附金等負擔ノ場所ニ於テ町村費ヲ以テ施行スル元形修繕ニ限リ出願ヲ要セスト雖モ目論見帳相添ヘ豫メ土木監督區署ヲ經由シ其旨屆出ツヘシ

但明治十六年(八月)甲第八十四號布達ニ係ルモノハ此限ニ非ス

明治二十年縣令第三十三號ヲ以改正

第五條　地方税負擔ノ場所ニメ其工費土木費支辨法ノ歩合ヲ超過セス町村費負擔ニ止ル場合ニ於テ修繕ヲ要スルモノト認ルトキハ目論見帳ヲ調製シ其工事ヲ命スヘシ若シ地元及關係町村ニ於テ其修繕ヲ怠ルコアルトキハ所屬土木監着區署ニ於テ其工事ヲ執行シ工費ハ第十二條ニ準據シ之ヲ納付セシムヘシ

但町村費負擔ノ場所ハ其所屬郡役所ニ於テ本條ノ手續ヲナスヘシ

第六條　受負人ノ請求ニ依リ土木監着區署ヨリ工費金ノ下渡ヲ縣廳ヘ申出ルトキハ之ヲ郡役所ヘ送付スヘキニ付郡役所ニ於テハ之ヲ受負人ニ下渡スヘシ

但工事ノ都合ニ依リ豫メ工費金ノ全額ヲ送付スルトキハ其旨ヲ明記スヘキニ付郡役所ニ於テハ土木監督區署ノ通知ニ依リ其時々之ヲ下渡スヘシ

第七條　暴風雨等ノ爲メ地方税及其補助費ヲ以テ修繕スル堤防道路橋梁等臨時破壞ニ係ルトキハ戸長ニ於テ即時屆書ヲ調製シ郡役所及土木監督區署ヲ經由シ差出スヘシ

第二章　土木費ニ係ル工事

第八條　工事出願ノ節ハ戸長ニ於テ目論見帳ヲ調製シ願

書ニ添ヘ差出スヘシ

第九條　工事ノ請負ハ別ニ定ムル所ノ請負規則ニ據ルヘシ

第十條　工事竣工ニ至レハ其請負者ニ於テ出來形帳一冊ヲ調製シ正算ノ廉々ヘ撥印シ土木監督區署ヘ差出スヘシ

第十一條　凡入札若クハ指名請負ニ係ル工事ニ對スル町村負擔ノ工費ハ土木費支辨法ニ依リ其歩合ヲ定メ其金額及納付ノ期日ヲ郡役所ヲ經由シ其所屬戸長ヘ令達スヘキニ付戸長ニ於テハ期日迄ニ該金員ヲ郡役所ヘ納付シ郡役所ハ之ヲ本廳ヘ送納スヘシ

第十二條　請負人ニ係ル保証金ハ土木監督區署ノ通達ニ依リ所屬郡役所ヘ納付スヘシ

第十三條　土木監督區署ニ於テハ前條ノ手續ヲ了ルノ後

直ニ請負人ノ住所姓名並ニ其金額及ヒ納期ヲ郡役所ヘ通報スヘシ

但郡役所ニ於テハ其納期ヲ經過シ上納セサルトキハ其旨土木監督區署ヘ通知スヘシ

第十四條　郡役所ニ於テ前條ノ通知ヲ受クルトキハ請負人ヨリ納付スル金額ヲ照査シ之ヲ受取リ本人ヘ納付濟ノ証ヲ下附シ其旨土木監督區署ヘ通知スヘシ

第十五條　工事竣功ニ至レハ土木監督區署ニ於テハ請負者ヨリ領置スル所ノ保証金ノ下戻方ヲ郡役所ヘ通知シ同時ニ本人ヘモ其旨通達スヘシ

第十六條　郡役所ニ於テハ前條ノ通知ヲ受クルトキハ豫テ領置スル所ノ保証金ヲ其本人ヘ交付シ曾テ附與セシ所ノ納付濟ノ証ヲ返納セシムヘシ

第十七條　土木費ヲ以テ支辨シタル不用ノ古材鉄物等ヲ

公賣ニ附スルトキハ土木監督區署ヨリ所屬戸長役場ヘ通達スヘキニ付戸長役場ニ於テハ日數十日以内其旨ヲ廣告シ入札三通以上ヲ取纒メ受付番號ヲ記シ土木監督區署ヘ差出スヘシ土木監督區署ニ於テハ開札調査ノ上之ニ意見書ヲ附シ縣廳ヘ送附スヘシ

但落札價格金五圓以下ノモノハ土木監督區署限リ第十八條ノ順序ニ依リ其拂下ノ處分ヲナスヘシ

第十八條　前條ノ入札及意見書ヲ縣廳ニ於テ受ケタルトキハ之ヲ調査シ其落札ノモノハ其旨郡役所ヘ通知スヘキニ付郡役所ニ於テハ之ヲ戸長ニ通知シ其代金ノ收入ヲナスヘシ

但前條但書及本條共其入札代價不適當ト視認ムルトキハ之ヲ取消スコトアルヘシ

第十九條　第十七條ノ古材鉄物等ヲ公賣ニ付シ其引渡迄ハ其所屬戸長役場ニ於テ之ヲ保管スヘシ

第三章　町村土木補助費ニ係ル工事

第二十條　地元及關係町村ニ於テハ豫テ部理代人二名以上ヲ定ノ置キ工事出願ノ節ハ目論見帳ヲ調製シ願書ニ添ヘ郡役所及土木監督區署ヲ經由シ之ヲ差出スヘシ

第廿一條　主務ノ官吏ハ工事ノ場所ヲ檢査シ目論見帳ヲ下附スヘシ

第廿二條　工事竣功ニ至レハ部理代人ニ於テ出來形帳二冊ヲ調製シ正算ノ廉々ヘ捺印シ郡役所ヲ經テ土木監督區署ヘ差出スヘシ土木監督區署ニ於テハ實地ニ就キ檢査ノ後之ヲ縣廳ニ差出スヘシ縣廳ニ於テハ調査ノ上後証ノ爲メ該帳ニ割印シ一冊ハ之ヲ留メ置一冊ハ土木監督區署及郡役所ヲ經テ下附スヘシ

第廿三條　町村土木補助費ヲ受ケタル工事ニノ無謂竣功

期日ヲ經過セシモノハ主務ノ官吏實檢シ其出來形ノ歩通ニテ之ヲ打切リ殘工事ノ費額ハ一切之ヲ補助セサルモノトス

第廿四條　町村土木補助費ヲ以テ補助シタル不用ノ古材鉄物等公賣ニ付スルトキハ所屬戸長役場ニ於テ取計其時々郡役所ヘ屆出其代金ハ戸長役場ニ預リ置キ追テ該所ノ修繕費ニ充ツヘシ

但補助費ヲ請求スルトキハ町村費限度外ニ遣ヒ拂フモノトス

第四章　雜則

第廿五條　工事中ハ勿論堤防等ノ決潰シ元形ノ判知シカタキモノハ戸長若クハ請負者ニ於テ前以テ丁張ヲナシ主務官吏檢査ノ便ニ供スヘシ

第廿六條　目論見帳ニ掲記スル反別地價ハ前年一月一日ノ調ニ據ルヘシ

但其年度中ハ之ヲ用ユルモノトス

第廿七條　前條々ニ係ル願屆等ノ書式ハ別ニ之ヲ定ム

建築門

◎製造所

○甲第百四十九號　明治十二年九月廿六日

市街ハ勿論村落ト雖モ人家稠密ノ場所ニ於テ火止石炭油製造場取設候儀不相成候條此旨布達候事

●田野門

◎田圃

○甲第拾八號　明治十九年二月十五日

田圃蟲害豫防規則左ノ通相定メ來ル三月一日ヨリ施行ス

右布達候事、

田圃蟲害豫防規則

第一條　此規則ニヨリ豫防及驅除ナナスヘキ害虫ハ左ノ六種トス

一螟蟲　ズイムシ

一浮塵子　ウンカ

一螟蛉　稻ハムシ茶ハマキムシ

一蛞蝓　ケムシ

一避債蟲　ミノムシ

一地蠶　ヨトウムシ

明治十九年甲第二十八號ヲ以テ改正

第二條　害虫ノ豫防若クハ驅除ノ爲メ特ニ官ヨリ命令スルトキハ渾テ之ヲ遵守スヘシ

第三條　田圃ニ害虫ノ發生セシトキハ其作人ハ直ニ驅除ニ着手シ同時ニ被害ノ狀況ヲ所屬戶長又ハ勸業委員ヘ報告スヘシ

第四條　害虫發生ノ報告ヲ受ケタル戶長又ハ勸業委員ハ速ニ驅除法ヲ諭示シ互ニ相通報スヘシ

第五條　驅除地區ハ町村ノ區域ニ據リ豫メ郡長ニ於テ劃定スヘシ

但地區決定ノ上ハ每區町村名當廳ヘ屆出ツヘシ

明治二十年縣令第七十四號ヲ以改正

第六條　害虫蔓延ノ勢ヒアルトキハ戶長勸業委員長勸業委員ヘ咨問ノ上驅虫地區內人民ヲ指揮シ驅除ニ從事セシムヘシ

第七條　害虫發生ノ翌年若クハ害虫發生ノ兆アルトキハ相當ノ豫防法ヲ施行スヘシ

第八條　豫防法ノ施行ハ同地區內申合セ同時ニ着手スヘシ

但勸業委員長及ヒ勸業委員ニ於テ着手ノ時期ヲ異ニスルヲ必要ナリト認ムルトキハ此限ニアラス

第九條　第六條ノ場合ニ於テハ其驅除ニ係ル一切ノ費用ハ町村費ヲ以テ支辨スヘシ

第拾條　虫害ニ罹リタル田圃及ヒ畦畔ヨリ採收シタル藁莖類及草木ハ戶長ノ指揮ヲ受ケ殺虫法ヲ施行シタル后ニアラサレハ使用スヘカラス

但其害甚シキニ至テハ戶長ハ勸業委員長及勸業委員ニ諮問シテ燒棄法ヲ行ハシムルヿアルヘシ

第拾一條　第二條第三條第拾條ニ違背シタルモノハ違警罪ヲ以テ罰セラルヘシ

全上

全上

全上

◎山林

○明治十六年警規第十五號達（本文ハ第一項ニアリ）

第三拾項　官林除害ノ爲メ左ノ雛形鑑札携帶發砲可致義モ有之旨山林局出張所ヨリ申越候條此旨相心得ヘシ

鑑札雛形

番号

官林除害銃鑑札

國所　官名姓名

裏

本局割印朱

内務省　烙印

漁獵門

◎鳥獸獵

○天甲第八拾七號　明治十年六月廿九日

本年太政官第拾一號御布告ニ依テ人民其所有地ニ於テ他人ノ銃獵スルヲ有害トシ鳥獸獵規則第拾三條第八條ノ手續ヲ以テ銃獵制禁ノ制札ヲ掲ルハ不苦候得共右ハ取調之次第モ有之ニ付今後ハ勿論是迄掲ケ有之分ハ屆ケ出置候儀ト可相心得此旨相達候事

但村吏役座ニ於テ掲ケ候分モ本文同樣可相心得候事

○乙第百四十八號　明治十三年十一月十一日

郡役所

内務省ヨリ左之通リ被相達候條爲心得此旨相達候事

丙第六十五號

東京警視本署

府縣東京府沖縄縣ヲ除ク

鳥獸獵期伸縮許可ノ場所ニ於テ定期免許ノ者更ニ伸期願出免許候節ハ免狀書換手數料不及取立本人所持ノ免狀月日ノミ書改候儀ト可相心得此旨相達候事

但從前ノ伺指令等抵觸ノ分ハ總テ取消候儀ト可相心得事

○甲第五拾二號　明治十八年五月廿八日

管内銃獵期限ノ義本年以后其年十月十五日ヨリ次年五月三十一日マテヲ一期ト相定候條此旨布達候事

但シ明治十七年甲第五拾七號及甲第百拾九號布達ハ廢止ス

○警第百六十一號　明治十八年十一月十三日

警察署

禽獸ノ害ヲ除去シ田畑ヲ保護スル爲メ保護銃ノ免許ヲ受ケタルモノ無慮四千人モ有之中ニハ職遊獵ヲナス者モ有之哉ニ相聞甚以テ不都合ノ事ニ候條右樣ノ儀無之樣岐度取締相付スヘシ

右相達候事

○

◎捕魚及採藻

○甲第百六十七號　明治十五年十月廿六日

潛水器使用規則別紙之通相定候條此旨布達候事

潛水器使用規則

第一條　潛水器械ヲ使用シ漁業セントスル者ハ漁場ニ關係アル村浦ノ保証書及ヒ漁場ノ畫圖面ヲ添ヘ出願スヘシ

但營業者ト村浦トノ間ニ制限ヲ設ケ又ハ收利配當等ノ約定ヲナスモノハ其寫ヲ添ユヘシ

第二條　潛水器械ノ使用ヲ許ルス場所則チ海面ヲ三區ト

明治十九年縣令第五號ヲ以テ改正

ナシ互ヒニ來往漁業スルヿヲ禁ス其區畫并機械ノ限數左ノ如シ

第一區	志摩國	答志英虞郡	器械數 三臺以下
第二區	伊勢國	度會郡	仝 一臺
第三區	紀伊國	南牟婁郡 北牟婁郡	仝 二臺以下

第三條　營業期限ハ許可ヲ受タル日ヨリ滿一ケ年トス

但滿期ニ至リ尚繼業セント欲スル者ハ更ニ出願許可ヲ受クヘシ

第四條　營業者ハ左ノ制限法ヲ遵守スヘシ

一捕獲スル鮑ハ堅長四寸曲尺以上ニ限ル

一鮑種分子ノ季節卽每年十月ヨリ十二月迄三ケ月間一切捕獲ヲ禁ス

一漁場ハ從前蜑婦營業場ノ外タルヘシ

第五條　每月ノ捕獲高ニ漁業ノ實況ヲ付シ翌月五日限リ郡役所ヲ經テ屆出ツヘシ

第六條　營業期限內ト雖モ水產繁殖上妨害アリト見認ムル時ハ其營業ヲ禁止スルヿアルヘシ

第七條　第一條ヨリ第四條マテノ條項ニ違背スル者ハ違警罪ニ依リ罰セラルヘシ

第八條　沈沒品搜索ノタメ潛水器械ヲ使用セント欲スル者ハ豫シメ場所及ヒ日數ヲ定メ所轄郡役所ヘ屆出ヘシ

○乙號　外　明治十五年十月卅日

度會答志英虞南北牟婁郡役所

右沿海(度會郡東北沿海ヲ除ク)戶長役場

今般甲第百六十七號ヲ以潛水器使用規則布達候ニ付テハ取扱上厚ク注意致スヘシ尙爲心得左之條項相示候此旨相

達候事

一數人一時ニ願出臺數ノ制限ヲ越ル場合ニ於テハ其願人ヘ熟談協議ヲ遂シメ結社又ハ他ノ方法ヲ立テ同業相和睦シ苟モ一己ノ利ヲ爭ヒ紛議葛藤ヲ起ス等ノ義無之樣示諭スヘシ

一漁場ハ時々轉換シ捕獲ハ其程度ヲ稽ヘ力メテ鮑種ノ蕃息ヲ慮リ苟モ苛酷ノ擧勸無之樣豫メ示諭スヘシ

一區内同業者ハ鮑種蕃息上妨害トナルヘキ擧動無之タメ漁場區劃ヲ定ムル等豫メ規約ヲ結ハシムヘシ

但本文ノ場合ニ於テハ規約書ノ寫ヲ差出サシムヘシ

○甲第二拾五號　明治十六年四月九日

昨十五年十月甲第百六十七號布達潛水器使用規則中左ノ通リ更訂追加シ元第五條ヲ第六條トシ已下順次繰下候條此旨布達候事

一第五條　潛水器械ノ使用ヲ許スハ本縣下在籍ノ者ニ限ル

一第二條　潛水器械ノ使用ヲ許ス場所云々

但一區内ト雖モ一場ニ二臺以上ヲ併用スルヲ許サス

明治十九年二月十八日

○甲第二十號　明治十九年三月三十日

鮎魚繁殖ノ爲メ伊勢國木曾川ニ於テ毎年三月一日ヨリ六月三十日迄右漁業ヲ禁止ス

右布達候事

○甲第三十一號　明治十九年三月三十日

縣下海面漁場内ニ於テ來ル二十二年三月限リ吹タセ網（一名帆引網）ノ使用ヲ廢止ス

但名稱ヲ異ニスル漁具漁法ト雖モ吹タセ網ニ類似ノモノハ渾テ本文ニ準ス

○三重縣令第九十三號　明治二十年十二月六日

河川水族ノ蕃殖ヲ圖ル爲メ漁業取締規則左ノ通相定メ明治二十一年一月一日ヨリ施行ス

河川漁業取締規則

第一條　本則ハ左ノ諸川ニ限リ適用スヘシ

一伊勢國　宮川筋（大內山川　藤川　市ノ瀬川　横輪川）共
一同國　五十鈴川筋
一同國　櫛田川筋（稻木川）共
一同國　雲津川筋（中村川）共
一同國　鈴鹿川筋（石帶川　安樂川）共
一同國　員辨川筋
一同國　町屋川筋
一同國　名張川筋（無田川　青蓮寺川　長瀨川）共
一伊賀國　長田川筋（廣瀨川　服部川　稻橋川）共
一同國　紀伊國　新宮川筋　一名音無川ト云フ（北山川）共

第二條　前條諸川ニ左ノ項目ヲ禁止ス

第一項　點魚ハ毎年一月一日ヨリ五月三十一日マテ鰤魚ハ毎年六月一日ヨリ七月三十一日迄ノ間ニ於テ漁獲ヲナスコト

第二項　魚類ニ有害トナルヘキモノヲ水中ニ投シ（方言毒流シノ類）漁獲ヲナスコト

第三條　此規則第二條ノ各項目ニ違背スルモノハ本縣違警罪ヲ以テ罰セラルヘシ

●司法門

◎重輕罪犯捜査

明治十四年一月廿六日

○甲第十一號

旅籠屋湯屋飲食店等來客ノ者盗難ニ罹リ候節獨リ其家主ノミ屆ケ書差出ス者往々之レアリ取調上差閊少カラス候條以來其家主被盗者各自又ハ連署ヲ以テ速カニ所轄警察署又ハ分署ヘ屆出ツヘシ此旨布達候事

明治十四年十二月二十四日

郡長
戸長

○無　號

治罪法第六十條第二項警部アラサル地ノ戸長トアル儀ニ付別紙寫甲印ノ通司法卿ヘ相伺候處乙印ノ通指令有之候條爲心得此旨相達候事

（別紙）

甲印

一治罪法第六十條第二項ニ警部アラサル地ノ云々之レアリ右ハ警察署若クハ分署當縣ニ於テハ警察署分署共警部駐在セリ所在ノ地假令ハ當縣伊勢國安濃津又ハ山田四日市等ノ如キハ其全市街及ヒ之ニ連續セシ地ヲ併セ其他ノ村落ニ在テハ其全村ヲ除クノ外ヲ以テ警部在ラサル地ト指定セラレタル義ト心得可然乎

右明治十四年十一月十四日付司法卿ヘ伺

乙印

警部在ル市街又ハ其全村ノ外ハ連續セシ地ト雖モ警部在ラサル地ト心得ヘシ

右明治十四年十二月十三日司法卿指令

○警甲第一號　明治十六年四月十日

警察署

警察處務規則別冊ノ通相定候條此旨相達候事

但從前ノ令達本文抵觸ノ分ハ總テ廢止トス

第一節　重輕罪犯ノ治罪

第一條　此節ハ治罪法中明文ナキ事項ヲ集メ以テ其補足トス故ニ治罪上ニ付テハ治罪法ハ勿論其他布告布達等參照處分スルヲ要ス

第二條　巡査現行犯又ハ准現行犯（以下略シテ單ニ現行犯ト記ス）ヲ擒見スルカ或ハ之ヲ受取リタルトキ其檢證處分ヲ要スルト思量スル者ハ速ニ所屬警部又警部補（以下略シテ單ニ警部ト記ス）ニ報知シ死体若クハ兇器贓物其他一切ノ証憑ヲ保存シ力メテ原体ヲ變改ナカラシメ且現場ノ噪擾及見証人ノ離散ヲ制シ以テ警部ノ來着ヲ待ツヘシ

第三條　現行犯ノ被告人止ク罰金ノ刑ニ該ルヘキ者ト思量スル者ハ捕繩ヲ施サス其禁錮以上ノ刑ニ該ルヘキ者

ト視認ムル者若クハ逃亡ノ恐レアル者ハ其身体ヲ拘束スヘシ

第四條　重罪輕罪ノ現行犯ニ係ル被告人其家宅若クハ他ノ家宅ニ潛匿シタルヲ認知シタル時ハ職役ヲ名乘リ其家ニ立入ルヘシ若シ其家主又ハ家族門戸ヲ閉鎖シ若クハ其他ノ所爲ヲ以テ之ヲ拒ム時ハ强テ進入スルモ妨ナシ

第五條　治罪法第百六條ニ依リ被告人ヲ受取リタル警部ハ逮捕人ノ氏名職業住所及逮捕シタル事由ヲ糺シ調書ヲ作リ巡査之ヲ受取リタルトキハ其始末書ヲ作リ幷ニ逮捕ヲナシタル人ニ讀聞セ共ニ署名捺印スヘシ

但巡査ニ於テ逮捕ヲナシタル人ノ身分職業住所不分明ト思料スルカ又ハ被告人ノ請求アリタル時ハ捕ヲナシタル人ニ對シ共ニ所屬警察署又ハ分署ニ至ル

ヲ求ムヘシ若シ正當ノ事申ナクシテ其求ヲ肯セサルトキハ强テ引致スルヲ得

第六條　巡査ハ現行犯ノ被告人ヲ逮捕シ又ハ之ヲ請取タル時ハ遠カニ人相書ヲ作リ其所持品ヲ檢收スヘシ就中刀劍火藥等他ノ兇害ヲナスヘキモノハ殊ニ該犯ノ手儘ナラサル樣注意スヘシ

第七條　現行犯ノ被告人逃亡スルトキハ直ニ追捕スヘシト雖モ若シ踪跡ヲ失シタル時ハ人相着服所持品等ノ樣樣ヲ詳記シ巡査ニ於テハ之ヲ接近警察署分署及ヒ本屬警部等ニ飛報シ警部ニ於テハ其景況ニ依リ其飛報ヲナシ部下ニ係ルトキハ令狀ヲ發付スル等嚴密捕獲ノ手配ヲナシ尙其旨ヲ檢事ニ通知スヘシ

第八條　巡査軍人軍屬ノ現行犯罪及ヒ脫走セシ者ヲ逮捕セハ常人ト同シク警察署又ハ分署ヘ引致スヘシ

明治十八年乙第百九十八號ヲ以改正

全上

第九條　巡査巡回等ノ途中司法警察官郡長戸長ヨリ現行犯罪人ヲ其警察署又ハ分署ヘ引致スヘキ旨ヲ以テ引渡サレタル時ハ証憑物件ト共ニ速ニ警察又ハ分署ニ引致スヘシ

第十條　巡査人民ノ密告等ニテ犯罪アリト思料シタル時ハ探索スルニ果シテ確信スヘキ証跡アルトキハ先ツ之ヲ警部ニ申報シ指揮ヲ請フヘシ尤モ其准現行犯ト思量スル場合ニ於テハ直チニ逮捕シテ警部ニ申報スベシ

第十一條　檢視ノ際ニハ家人若クハ見証人及近隣其他死者ノ交友又ハ其死ノ始末ヲ察知シタル一切ノ關係人ヲ訊問シ生時ノ行跡遺恨ヲ含ムモノヽ有無等ヲ筆錄シ其ニ紙尾ニ署名捺印シ又ハ署名捺印シタル始末書ヲ差出サシムヘシ

但關係人數人アル時其供狀同シキ者ハ連署セシムルモ便宜タルヘシ

第十二條　檢証調書ハ現場ニ於テ調整スル能ハサル場合ト雖モ犯罪人及ヒ証人時間ノ經過スルニ從ヒ思慮作言ノ恐アレハ假ニ要点ヲ訊問筆記シ之ニ捺印セシメ其供述ヲ反畢セシメサルヲ要ス

第十三條　檢視濟ノ屍ハ親屬ニ交付シ其住所知レサルモノハ其地ノ戸長ニ交付シ共ニ受取証ヲ徵シ一件書ト共ニ檢事ニ送致スヘシ

但住所姓名分明ナル者ト雖モ遠隔ニシテ親屬ニ交付シ難キ者ハ戸長ニ引渡スヘシ

第十四條　警部現行犯被告人ヲ逮捕シ又ハ之ヲ受取リ其訊問檢証處分等ヲ終リタル時ハ關係書類及物件ト共ニ速ニ檢事ニ送ルヘシ

第十五條　外國人及ヒ外國公使館屬員現行犯ニ付テハ司

法警察規則附錄ニヨリ處分スヘシ

第十六條　警部強盜窃盜切破リ其他事故ノ重キモノ歐傷等ノ被害者アルコトヲ知リタル時ハ直チニ臨檢シ現行犯檢証處分ノ例ヲ以テ被害人其他供述ノ調書ヲ作リ猶其場ノ形況ヲ筆錄シ被告人ノ人相ヲ知リ得ヘキコトニ於テハ其人相書等ヲ添ヘ檢事ヘ送付スヘシ

第十七條　變死及出火ノ際臨檢シ若シ放火又ハ被殺ニ係ルコト發覺セハ假令犯者ヲ知ル能ハスト雖モ前條ニ準スヘシ

第十八條　代人ヲ以テ告訴又ハ告發ヲナシタル者アル時ハ本人ヨリノ委任狀ヲ所持スルヤ否ヲ問ヒ之ヲ檢閲スヘシ

但無能力者ノ爲メ法律ニ定メタル代人告訴ヲナストキハ特ニ委任狀ヲ要セス其代人ニ相違ナキヤ否ヤ証明セシムヘシ

第十九條　告訴告發ヲ受ケ又ハ其他ノ原由ニ因リ犯罪アルヲ認知シ若シクハ犯罪アリト思料シタル時ハ充分ニ証憑及被告人等ヲ搜査シ起訴ノ資料ト爲ルヘキ事實ヲ具備シ然ル後之ニ添書ヲ附シ檢事ニ送致スヘシ其急速ノ處分ヲ要スル事件ニ付テハ先ツ之ヲ檢事ニ送致シ然ル後尙搜査ヲナシ隨テ証憑ヲ得レハニ隨テ送致スヘシ

第二十條　告訴告發等ニ係ル非現行犯ノ被告人及証人等ハ報知書ヲ以テ警察署等ニ出頭セシメ之ヲ訊問スルヲ得ヘシ此場合ニ於テ其擧動犯人ト思料スルトキハ現行犯ニ准シテ處分スヘシ

第廿一條　告訴告發ヲナシタル後其不備若クハ差違ノ廉アリ變更ヲ申出ルカ又ハ告訴ト共ニ私訴ノ申立ヲナシタル時ハ其書面ヲ出サシメ檢事ニ送致スヘシ

第廿二條　告訴告發ヲ願下ケントスル者アル時ハ願書二

通ヲ出サシメ警部ニ於テ問屆其副本ヲ撿事ニ送致スヘシ又告訴告發ノ事件罪ノ問フヘキナキモノト確認スル時ハ說諭シテ之ヲ却下スヘシ

第廿三條　巡査治罪法第九十六條ニ依リ告發スル時ハ警部ヲ經由スヘシ而シテ告發後令狀發付マテノ間ハ其被告人ノ踪跡ヲ失セサル樣隱密注意スヘシ

第廿四條　人相書ニヨリ逮捕スル者ハ豫テ示達ヲ受ケタル人相書ニ照合セ毫末ノ違ナキヲ認メサレハ容易ニ逮捕スヘカラス

第廿五條　令狀執行ニ臨テハ別テ被告人ノ擧動ニ注目配意シ逃走隱匿ノ奸策ヲ施サシメサルヲ肝要トス故ニ時機ニヨリ制服ヲ脫シ私服ヲ着ケ執行スルヿヲ得ヘシ

第廿六條　令狀ヲ執行スルニ當リ被告人縣會議員ニシテ其議場內ニ在ル時ハ臨監ノ警部ニ計リ議長ニ令狀ヲ示シ承諾ヲ得テ執行スヘシ

第廿七條　明治十四年第四十八號布告ニヨリ証人ヘ呼出狀ノ送達方ハ其呼出狀ヲ發スル署ノ小使又ハ一時雇ノ者ヲ以テスヘシ若シ呼出ニ應セサル時ハ再度ノ呼出狀ヲ發シ又ハ直ニ拘引狀ヲ發シ訊問後其呼出ニ應セサルニ依リ罰金ヲ言渡スト否トハ豫審判事ノ處分ニ付スヘシ前項ノ証人宣誓ヲ肯セサルカ又ハ宣誓シテ陳述ヲ肯セサル時ハ其旨ヲ以テ囑托ノ事ヲ豫審判事付ニ返付スヘシ

第廿八條　檢証訊問其他ノ調書ヲ作ルニハ專ラ平易ノ語ヲ用ヒ文飾セスシテ現狀ヲ眞寫スルヲ以テ主トシ且字句ヲ正シクシ本年本月本日等ト書セスシテ何年何月何日トヤ或ハ該人ト記セスシテ何某ト記スヘシ

第廿九條　左ニ治罪ニ關スル書式ノ一例ヲ示ス余ハ之ニ

明治十八年乙第百八十九號ヲ以改正

倣ヒ事實ニ就テ詳備スルヲ要ス

○報告書式

府縣國郡町村番地身分職業

姓　名

年　齢

右ノ者何年何月何日時本職何所巡警ノ際其擧動云々犯人ト思料スルニ依リ職名ヲ申聞ケ住所姓名職業用向キ何ノ地ヨリ何ノ地ニ至ルヤ等問合スルニ何々ト答ヘ答辯曖昧ダルヲ以テ猶擧動ノ要点ヲ示シ詰問シタルニ此者本年何月何日何所ニ於テ何罪ヲ犯シタルモノニテ本日何地ニ可行云々ヲ供述シ其犯人ニ相違ナキト認定シタルニ依リ准現行犯ヲ以テ直ニ逮捕警察署又ハ分署ヘ引致候也

年月日

何　署

巡査　姓　名　印

全上

府縣國郡町村番地身分職業

姓　名

年　齢

右ノ者何年何月日時本職何所巡警ノ際何町村某方ニ於テ現ニ何罪ヲ犯スヲ見認メタルニ依リ職名ヲ申聞何所ニ於テ之ヲ逮捕シ（逮捕シタル時ノ景況ヲ詳記スヘシ）証憑物品何々ヲ引上ケ本犯ヲ當警察署又ハ分署ニ引致候也

年月日

何　署

巡査　姓　名　印

又

府縣國郡町村番地身分職業

姓　名

年　齢

明治十八年乙第八十九號ヲ以テ改正

明治十六年甲第七號ヲ以テ追加

右ノ者何年何月日時何國何郡町村ニ於テ何罪ヲ犯シタル
ニ依リ其巡査ヨリ向キニ戸長ヘ引渡シタルモ
ノナラハ其事由ヲ詳カニ記載スヘシ　當警察署ニ
引渡スヘキ旨ヲ以テ年月日時該犯ヲ司法警察官即チ郡長
某（又ハ戸長某）ヨリ引渡シタルニ付書類物件ト共ニ當警察署又
ハ分署ヘ引致候也

年月日　何署
巡査　姓名印

家宅捜索調書式

被告人ノ住所身分職業姓名年齢	
被告事件	
戸主ノ氏名職業住所	戸長又ハ隣佑二名以上或ハ戸主若クハ其同居ノ親屬若クハ隣佑又ハ戸長ノ立會アリタルコト
被告人民事原告人立會アリタルトキハ其氏名	
捜索シタル室内及ヒ押入等ノ場所及ヒ被告人ヲ捕獲シタルトキハ其狀況	
開披シタル器具	
差押ヘタル物件	
捜索ノ時間	午時　分ヨリ　午時　分マテ
差押ヘタル物件ニ付被告人ノ辨解	別紙　第號調書ノ通

右家宅捜索處分ヲ終リ此調書ヲ作ル者也

明治　年月日　何々ニ於テ　官　姓名印

住所身分職業
立會人　姓名印
仝

檢証調書式

被告人ノ住所身分職業姓名年齢

檢証ヲ爲シタル場所

家宅内ニ於テ檢証ヲ爲シタルトキ戸主又ハ其同居ノ親屬若クハ戸長ノ立會アリタル

被告人民事原告人又ハ其代ノ立會アリタルトキハ其氏名

被告人ノ人違ナキヿ犯罪ノ性質方法日時場所ヲ詳明スヘキ摸樣及ヒ被告人ノ利益トナルヘキ摸樣

鬪歐殺傷其他事跡繁雜ニ係ルトキハ別ニ調書ヲ作リ此欄内ニハ（別紙第何號調書ノ通）ト記スヘシ

仝　姓名印

差押ヘタル物件

差押ヘタル物件ニ付被告人ノ辨解

別紙第　號調書之通

証人ノ陳述

別紙第　號調書之通

鑑定人ノ申立

別紙第　號調書之通

檢証時間

午時分ヨリ午時分マテ

右檢証處分ヲ終リ此調書ヲ作ル者也

明治　年　月　日

何々ニ於テ

官姓名印

檢証別調書式

檢証別調書

死傷人住所身分職業姓名年齢

証人住所身分職業姓名年齢

死傷ノ場所及ヒ身體其他一般ノ摸樣

何月何日何郡何村何番屋敷何ノ誰ヨリ何地何所ニ死屍アル旨訴出タリ其傷所ヲ檢視スルニ左ノ如シ

一被殺人（謀殺又ハ故殺）一頭部何ケ所（深サ又長サ）一胸部何ケ所（深サ又長サ）一何々但刀槍斬突傷又ハ棍棒瓦石打撲傷等區別ヲナシ知ルヲ得ヘキニ於テハ何傷致命ヲナスヤ檢認スルヲ要ス或ハ皮膚紫黑色ニ變シ或ハ惣身斑黑腹肚膨脹叶血夥ク毒殺ニ係ル又ハ面部紫黑色ニ變シ頷下ニ絞痕アリ絞殺シテ棄ツル者ト認ル其他ノ事情詳細ニ記載スヘシ一眼ヲ（怒シ又ハ閉シ）齒ヲ（切リ口ヲ閉チ）左手ヲ屈シテ掌ヲ握リ右手伸ヘテ腿攣ミ両足ヲ屈伸シ仰伏向ニ例シ左神裂ケ血痕所所ニアリ或ハ流血夥シク等（何ノ戸ヲ破リ入何所ノ板塀ヲ越ヘ逃走セシト見ヘ何所ニ足跡アリ或ハ何所ノ田畠踏荒シ草木野菜狼籍タルヲ見レハ何所ヨリ來リ去リタルト見ヘ或ハ一人或ハ數人ノ所爲ナルヘク又何村ヲ距ル何程何道ニ出ル等）五体疵裏腹皮背ニ一貼スル數日飲食ヲ得サリシ等）一口腹手足諸筋弛垂レ縊繩ノ痕位体重ト稱フ等全体傷痍ナク水溺胸腹ニ先滿シ四支強直等二事情繁雜又ハ重大事件ノ見込アル分ハ別ニ圖面ヲ添付スルヲ要ス

兇器其他ノ物件

一何所ニ血ニ染ミタル藤刀柴刀棍棒アリ何印ノ配シタル傘提燈或ハ無印何品アリ

參考

書類

通

檢視官ノ意見其參考ト爲ルヘキ事項ヲ此欄内ニ記入スヘシ

右檢視處分ヲ終リ此調書ヲ作ル者也

明治　年　月　日

何々ニ於テ

官　姓名　印

住所身分職業

立會人　姓名　印

仝　姓名　印

鑑定命令書式

鑑定命令書

住所身分職業

姓名

右ハ技術(職業)ニ依リ左ノ事項鑑定ノコトヲ命ス

一何々、、、

一何々、、、

以上

何所ニ於テ

何警察署

官姓名印

明治何年何月何日

物品目錄書式

目錄

一何々　但製作何々

右ハ何某方ニテ押収シタル何某ノ被盜品又ハ何々

一金何圓何拾錢

一衣類

内　男向何々　女向何々　枚　連何々編何々何々

右ハ被告人何某ヨリ取揚ケタル何某被盜品又ハ何々

一何々

右ハ被告人所持品

右被告人　氏名印

取調人　官姓名印

明治何年何月何日

犯罪捜査錄書式

明治年	犯罪捜査錄	主	官姓名印
犯罪	何村何某方ニ被雇中家女ノ財ヲ盜ミ逃走セシモノ又ハ何々ヲ犯シタル者	告訴又ハ告發人	住所身分職業姓名
逃走ノ月日	明治　年　月　日	被告人	住所身分職業姓名年齢如異名通稱アレハ何々
起因及月日	現行又非現行犯罪	物件	此欄内ニハ証憑物件ノ員數又ハ種類ヲ略記スヘシ
照	明治　年　月　日		
牒	何裁判所ヘ又ハ何警察署		

參考	主任官ノ意見其他事實參考トナルヘキ顛末此欄內ニ畧記スヘシ
探偵要領	何年何月何日何縣何警察署（被告住所又ハ潛匿スヘキ地）ニ捕獲方照會……主任印 何年何月何署ヨリ何々ノ旨回答㊞……主任印 右ノ如ク探偵ノ要領ヲ記入スヘシ
結局	何年何月何地ニ於テ捕ニ就キタル旨何警察署ヨリ通知又ハ何々ト渾テ茲ニ結局ヲ記スヘシ㊞……主任印

犯罪捜査錄記載例

一此捜索錄ニハ被告人ノ住所姓名判然スト雖ヒ逃走シテ其踪跡ヲ得サルモノハ書式ニ從ヒ之ヲ記載スヘシ

但別ニ被告人ノ姓名ヲ記シタル票札ヲ掲示シテ署員ノ注意ニ便ナラシムル等便宜ノ取計ヲ爲スヘシ

一主任ハ時々捜偵專務員ヲ督促ノ捜索方ニ注意セシメ且ツ部外ニ渉ルモノハ原籍又ハ被告人潛匿スヘク思料スル地ノ警察署分署等ニ其捜索方ヲ囑托スヘシ

一捜索方ノ照會及回答ノ事實ハ其都度探偵錄ニ記入シテ參照ニ供ヘスシ

留置人名簿書式

留置人ノ住所姓名	留置ノ事由	罪名	犯罪ノ地	逮捕人氏名	逮捕ノ地	留置	勾留	犯罪ノ用ニ供シタル所持品
						明治年月日時	明治年月日時	

明治十八年警規第二十八號ヲ以追加

收監	明治年月日時	贓品
〃送付	明治年月日時	
責付歸宅	明治年月日時	
放免	明治年月日時	
〃送付	明治年月日時	所持品
留置人ノ住所姓名		
留置ノ事由		犯罪ノ用ニ供シタル品
罪名		
犯罪ノ地		
逮捕人氏名		
逮捕ノ他		
留置	明治年月日時	
勾留	明治年月日時	

明治十八年警規第二十八號ヲ以追加

收監	明治年月日時	贓品
〃送付	明治年月日時	
責付歸宅	明治年月日時	
放免	明治年月日時	
〃送付	明治年月日時	

犯人送付書々式

送付書

何縣何國何郡何町村何番屋敷
士族平民　何之誰

刑法第何百何拾何條

右窃盗被告事件治罪法第百四條之規則ニ從ヒ其處分ヲ了ヘ候處別紙書類ノ通ニ有之即被告人ハ頭書ノ刑ニ該ルヘキモノト認定候條一件及御送付候也

三重縣何警察署ニ於テ

明治十八年警規第二十八號ヲ以追加

明治　年　月　日　　警部　某

輕罪裁判所

撿事宛

人民呼出書式

報知書

右事件ニ付來ル　月　日午　第　時當署ヘ出頭可之有此段報知候也

但出頭之節此書面ヲ差出スヘシ

三重縣

警察署

明治　年　月　日

○被告人尋問調書式

被告人何某調書

某年月日本官ハ何所ニ於テ住所職業何某住所職業何某ノ立會ニテ何々事件ノ被告人何某ヲ訊問スル事左ノ如

問　其方ノ氏名年齢身分職業住所出生ノ地ハ如何

答　自分氏名ハ何々年齢ハ某年月日出生ニテ本月ニテ何年何ケ月身分ハ何々職業ハ何々住所出生ノ地トモ某(府縣)某國某(町村)何番地ナリ

問　其方ハ住所職業甲某ハ曾テ相識ルモノナルヤ

答　甲某ハ自分ト同業ノ者ニテ尤モ懇意ナリ

問　本日何時何所ニ於テ甲某ヲ毆打創傷シタル原因ハ如何

答　曾テ甲某ヲ毆打シタルフナシ

問　其方ハ今朝ヨリ何業ヲナシ居リシヤ

答　昨夕ヨリ不快ニテ平臥シテアリシモ何時頃少シ快氣ヲ覺ヘ入湯ニ立越ス途中逮捕ヲ受ケタリ

問　其方着衣ノ左袖ニ鮮血ノ淋漓タルハ如何

答　ナシ

問　斯ノ如キ証據アルモ尚ホ陳辯セントスルヤ

答　今ハ何ヲカ包マン本日何時何所ニ於テ甲某ニ邂逅シタルニ頻ニ舊債金二圓督促ヲ受ケ持合セ無之旨ヲ以テ辞スルモ聞入レス竟ニハ不遜ノ語ヲ放ツヨリシテ怒氣ヲ發シ自ラ本心ヲ失ヒ地上ニアル石ヲ以テ甲某ノ頭部ヲ三タヒ毆打セシ其傷キタルヤ否ハ知ラサルナリ

問　其石ハ何レニ置キシヤ

答　路傍ノ草中ニ抛棄シタリ

問　其方ハ曾テ某年月日某輕罪裁判所ニ於テ毆打創傷ニ因テ疾病ニ至ラシメタル罪ニ依リ一年ノ重禁錮ニ處セラレタルニ非スヤ

答　然リ實ニ寃罪ニテアリキ

問　其方ノ陳述ニ依リ只今草中ニ於テ差押ヘタル石ハ甲某ヲ毆打セシモノニ相違ナキヤ

答　左程大ナリト覺ヘサリシモ血痕ノ班々タル上ハ相違アルマシ

右被告人何某ニ讀聞セタル處其陳述ヲ變更增減スヘキ事ヲ申立タルニ付キ更ニ訊問スルヿ左ノ如シ

問　其變更增減スヘキ事項ハ如何

答　甲某ハ不遜ノ語ヲ放ツノミナラス手ヲ以テ自分ノ面部ヲ毆打シタルニ因リ如此擧動ニ及ヒタリ

問　証據トスルモノアリヤ

答　不幸ニシテアルヿナシ

右被告人何某ニ讀聞シタル處其陳述毫モ無相違旨申立左ニ署名捺印ス

被告人　氏　名　印

右調書ヲ立會人等ニ讀聞セタル上本官ト共ニ署名捺印ス

ル者也

但出張先ニ係ルヲ以テ官署ノ印ヲ用フル能ハス

某年月日何所ニ於テ

警部　氏名　印

立會人氏名　印

立會人氏名　印

○証人調書式

証人何某調書

某年月日本官ハ何所ニ於テ住所職業何某住所職業何某ノ立會ノ上甲某ノ何々事件ニ付證人トシテ氏名ヲ宣誓ヲ用フルコトナク訊問ズルコト左ノ如シ

問　其方住所身分職業氏名年齢ハ如何

答　自分ハ某縣某郡某村何番地(華士族平民)何業氏名ニシテ年齢何年何月ナリ

問　其方ハ何所ニ於テ住所職業甲某ノ住所職業乙某ノ長女丙某ヲ強姦セントスルヲ見タリシヤ

答　然リ自分某年月日時何所通行スル際女子ノ救援ヲ求ムル聲ヲ聞キ直ニ現場ニ駈付ケタレハ甲某ハ丙女ヲ壓伏シタリシカ自分ノ來ルニ驚キ逃走シタリ

問　其時丙女ハ何等ノ言語ヲナセシヤ

答　只涕泣スルノミナリシカ怪我ハセサリシヤト問ヒシニ壓伏サレシ際右手ヲ挫折シタリト答ヘタリ

問　甲某ハ己ニ姦事ヲ遂ケタル模樣ナリシヤ

答　自分ノ駈付ル際拾間計ノ距離ニシテ甲某ハ丙女ヲ壓伏シ丙女ハ始終抗拒セシコトナレハ其操ヲ破ラレサルヤ明ナリ

問　其方ノ外現場ニ居合セタルモノハ非リシヤ

答　他ニ救援ニ赴キタル人ナシ併シ何村ニ於テハ其哭聲

ヲ聞シモノハ多分アルヘシト思ハレタリ

右証人何某ニ讀聞セタル處其陳述毫モ相違ナキ旨申立署名捺印ス

証人　氏名　印

右立會人ニ讀聞セタル上本官立會人ト共ニ署名捺印スル者也

但出張先ニ係リ官署ノ印ヲ用フル能ハス

某年月日何所ニ於テ、

警部　氏名　印

立會人　氏名　印

明治十七年警甲第二號ヲ以テ改正

○明治十六年警甲第一號達（本文本門別項ニアルヲ以テ略ス）

第四節　盗賍品捜査

第一條　盗難届ヲ接受セハ直ニ品目ヲ按シ其品柄ニ依リ之ヲ捜査スルノ必要ナリト見込ムモノハ其品類ニ據リ

左ノ商店ニ就テ公ケニ賣買帳ヲ点檢シ又ハ私カニ探索シ若クハ品觸書ヲ回達スル等臨機相應ノ處置ヲナスヘシ

質屋　古物商　古物市場

第二條　前條ノ場合ニ於テハ其品目ヲ詳記シ實際ノ景況ヲ量リ各警察署（又ハ分署）又ハ隣接警察署（又ハ分署）ヘ報告スヘシ其報知ヲ受ケタル警察署ハ同條ノ手續ニ依リ其捜索ヲナスヘシ

第三條　前條ノ手續ヲナシタル盗賍品ノ發見シタルトキモ其旨最前關係ノ警察署又ハ分署ニ通報スヘシ

第四條　警察署ハ營業人ノ請ニ依リ品觸書ヲ印刷スルヲ得其分署ニ於テ印刷ヲ要スルトキハ品目及遺難ノ年月日等ヲ詳記シタル書面ヲ警察署ニ送付スヘシ

其送付ノ際ニハ品觸書ヲ配布スヘキ業名例ヘハ質屋古

明治十八年乙第百八十九號ヲ以テ改正

明治十八年乙第百八十九號ヲ以テ改正

著屋ニ配布ヲ要スルト云ノ類及警察署分署名ヲモ申添スヘシ

第五條　警察署ニ於テ前條ノ請ヲ許シタルトキハ豫メ品觸書印刷ヲ命令シ其請書ヲ徵シ且ツ營業者ノ員數ヲ一警察署分署及ヒ一業毎ニ區別調査簿記シ置クヘシ

第六條　第二條ノ報告又ハ分署ノ申出等ニ依リ品觸書ヲ印刷スルトキハ其員數例ヘハ分署部內質屋ニ配布スヘキ應シ印刷ヲ照シテ活版所ニ送付シ刷了ノ上ハ直ニ營業スルノ類モノナレハ該署部ノ質屋ノ員數ニ人ニ配布スヘキ日限ヲ定メ其取締人ニ交付スルノ手續ヲナスヘシ

但本文取締人ニ交付ノ時ハ其受書ヲ徵シ置クヘシ

第七條　印刷命令書及費用徵收方法ハ警察署長ニ於テ適宜量定スヘシ

○明治十六年警規第十五號達（本文雜部門ニアリ）

第二十五項　豫審判事撿証物件差押ノ事件ニ付急速ヲ要スル場合ハ直ニ巡査ヲ同行シ又ハ所在ノ巡査ヲ使用スル等實際便宜ニ依ルヘシ

○明治十六年警規第十五號達（本文雜部門ニアリ）

第二十四項　明治十四年第八十六號公達ニ依リ巡査使用アルトキハ直ニ其照會ニ應シ其旨警察本部長ニ屆出ツヘシ

明治十七年二月十九日

○甲第十六號　明治十七年二月十九日

盜難屆出ノ迅ナルハ啻ニ犯人ヲ探偵逮捕スルニ其便ヲ得候而已ナラス遺雜物品ノ穿鑿モ隨テ行屆候儀ニ付其屆出方ノ儀ニ付テハ是迄數次及布達置候次第モ有之候處兎角遲緩ニ流レ爲メニ機會ヲ失シ犯人ノ就縛物品ノ發見至テ稀少ニ有之候間此邊篤ク注意シ以來左ノ條項ニ依リ迅速屆出ヲナスヘシ因テ該屆ニ係ル從前ノ布達告示ハ總テ廢

止候條此旨布達候事

遭難屆條項

一遭難トハ强盜窃盜詐僞取財冒認詐騙局騙掏摸ノ難及ヒ遺失物漂流物埋藏物ノ隱匿依託物ノ消費ニ遇フモノヲ云フ

二遭難ノ時ハ遭難ノ摸樣其節家人ノ在不在時刻門戸墻塀ノトハ云フノ類物品ノ形狀徽章番號縞摸樣損所等ノ類但衣類ハ數量原價買入レタル等ヲ屆出スヘシ

三前項ノ屆ハ可成丈ケ速ニ警察署分署巡行ノ巡査等ニ書面又ハ口述ヲ以テ之ヲナスヘシ

但戸長ニ於テ第四項ノ手續ニ着手シタル時ハ本項ノ屆出ヲナスニ及ハス

四戸長ニ於テ部内ニ遭難者アルヲ見聞スル時ハ速ニ第二項ニ依リ可成詳細ナル書面ヲ作リ所屬警察署ニ報告スヘシ

附甲第百七號　明治十八年十二月廿三日（本文ハ警業ノ部ニ在リ）

一遭難屆條項明治十七年甲第十六號布達第三項ノ屆

一遭難屆條項第四項ノ屆

以上ノ屆等ハ分署部内ノモノハ該署ニ之ヲ爲スヘシ

○警規第六號　明治十七年二月七日

警察署長

刑法第百五拾條ニ懈怠云々トアルハ重キ過失ニ因リ囚徒ノ逃走ヲ覺ラサル場合ヲ指稱サレタルモノニ付巡査此場合ニ遭遇シタルトキ其甚シキ不注意ニ出テサルモノハ同條ニ依ラス巡査懲罰例ニ依リ處分セラルヽ儀ト可心得此旨内達候事

○警規第拾五號　明治十七年七月十五日

警察署

各署ヨリ犯罪事件送致ノ節賍物被告カ手ニ現在セス他人ヘ贈與又ハ典賣等ナナシタル分ハ証據物トシテ押收スルハ格別ナルモ該品ヲ警察官ニ於テ現有者ヨリ引上ケ被害者ヘ仮下渡シ有之候テハ處分上差支候ニ付右被告カ手ニ現在スル物品ノ外ハ仮下渡ノ處分無之樣致度候旨安濃津輕罪裁判所檢事ヨリ照會越候條以來右樣可取扱此旨相達候事

○警第二十九號　明治十八年二月十九日

警察署長

安濃津始審裁判所檢事及ヒ豫審判事補ト別紙ニ列記セル項目協議ヲ遂ケ候ニ付向后右施行候此旨告達候事

一各警察署ニ於テ犯罪人ヲ檢事ヘ送付スルニ先ツ原籍調ノ掛合ヲ發スル

一探偵逮捕等ノ模樣ニ付豫審掛ニ於テ掛警部又ハ探偵掛ニ面接スルヲ必要ト思量スルトキハ簡單ナル書面ヲ以テ其警察署ニ通牒スレハ直チニ其需メニ應シ掛リ警部探偵掛等裁判所ニ出頭スル

一豫審掛ノ發シタル令狀ニ對シ被告人所在不分明ニシテ即時執行スル能ハサルトキハ充分ニ探偵ヲ盡シ凡ソ日數十日間ヲ過クルモ執行ノ目的ナキモノハ警察署ハ速ニ其旨ヲ報告スル

同檢察事務上ニ關スル項目左ノ如シ

一豫審判事檢事司法警察官互ニ協同親密ニシ被告事件ノ無罪免訴多カラサル樣注意ノ

一換刑拘留ノ者ニ對シ檢事ヨリ發シタル逮捕狀ニ依リ各警察署(津警察署ヲ除ク)ニ於テ便宜該拘留ヲ執行スル

一裁判所詰巡査ヲシテ其公務間檢事事務ニ關スル書類ヲ謄寫セシムルヲ得ル

○警第百四十號　明治十八年九月三十日

警察署

現行犯人取調ノ際既ニ証憑充分ナルモ尚ホ餘罪ノ有無取調ヲ爲ス向往々有之哉ニ相聞候處以來ハ一罪ノ証憑ヲ得ハ直ニ檢事ニ送付スヘシ

右相達候事

○警規第二十三號　明治十九年四月廿二日

警察署
分署

司法警察訓則別冊ノ通相定候旨司法大臣ヨリ訓令セラル

右相達候事

○司法省刑第二一三號

大審院
裁判所

司法警察訓則別冊ノ通相定ム

右訓示ス

明治十九年三月廿七日　司法大臣伯爵　山田顯義

警視廳
北海道廳
府縣
憲兵本部

（別冊）

司法警察訓則

第一編　總則

第一章　司法警察ノ要領

第一條　司法警察ハ犯罪ノ証憑及ヒ犯人ヲ捜査シ公訴ノ提起及ヒ實行ノ資料ニ供スル目的トス

第二條　司法警察ハ晝夜ノ差別ナク之ヲ行フ可キモノト

ス

第三條　司法警察ノ處分ハ迅速ナラサル可カラス事機ニ應シテ証憑ヲ集取スルヿヲ要ス

第四條　司法警察ノ處分ハ緻密ナラサル可カラス細大ノ事物ニ注目シテ証憑ヲ完備スルヿヲ要ス

第五條　司法警察ノ處分ハ緻密ナラサル可カラス嚴ニ其漏泄ヲ防キ犯人逃走罪証湮滅ノ弊ナカラシメ且成ル可ク被告人其他ノ者ノ名譽ヲ毀損スルヿナキヲ要ス

第六條　司法警察ノ處分ハ大事ニ嚴ニシテ小事ニ寛ナラサル可カラス小事ハ成ル可ク告訴人ノ証明ニ任ス可シ又濫ニ一家ノ隱微ヲ訐クヿナキヲ要ス

第七條　司法警察ノ權ハ身躰拘束家宅進入物件差押ニ及ホスヿヲ得ス

第二章　司法警察官ノ構成

司法警察權ハ司法大臣ノ統轄ニ屬ス

控訴裁判所檢事長ハ其裁判所ノ管轄地内ニ於テ司法警察ノ職務ヲ行フ者ヲ監督ス

又其管轄地内ニ於テ自ラ司法警察ノ職ヲ行ヒ又ハ其所屬ノ檢事ヲシテ之ヲ行ハシムルヿヲ得

又司法警察ノ職務ニ付キ其管轄地ノ内ノ檢事ニ告達シ又ハ時宜ニ因リ直チニ司法警察官ニ指揮スルヿアルヘシ

第十條　輕罪裁判所檢事ハ其裁判所ノ管轄地内ニ於テ司法警察ノ職務ヲ行ヒ又其補佐トシテ司法警察ノ職務ヲ行フ者ヲ指揮ス

第十一條　左ニ記載シタル官吏ハ檢事ノ補佐トシテ其指揮ヲ受ケ各其管轄地内ニ於テ司法警察ノ職務ヲ行フ

一　警視警部長警部

二　憲兵將校下士

三區長郡長
四治安判事
五第一項第二項ノ官吏在ラサル地ノ戸長第一項第二項ノ官吏ハ專務ニシテ第三項以下ノ官吏ハ專務ニ非サル者トス
專務ニ非サル官吏ハ成ルヘク其職務ヲ專務ノ官吏ニ讓ルヘシ
參照
○明治十四年太政官第十一號達憲兵條例
第四條　憲兵ハ其職務ニ關シ警視總監府知事縣令(東京府知事ヲ除ク)並ニ各裁判所檢事ヨリ指揮ヲ受クル片ハ直チニ其事ニ從フ可シ
○明治十五年第二十三號布告
憲兵ヲ設置シタル地方ニ於テハ其將校下士ハ司法警察官トシ卒ハ巡査ト同シタ司法警察ノ事ヲ行ハシム
第十二條　警視總監府知事(東京府知事ヲ除ク)縣令ハ各其管轄地內ニ於テ司法警察ノ職務ヲ行フコ付檢事ト同一ノ權ヲ有ス但國事犯其他重大ナル事件アル場合ニ限リ其職務ヲ行フヲ例トス
第十三條　豫審判事ハ直チニ告訴告發ヲ受ケタル事件ニ付キ其裁判所管轄地內ニ於テ司法警察ノ職務ヲ行フ但急速ヲ要セサル事件ハ成ルヘク檢事ニ讓ル可シ
第十四條　空知樺戸釧路集治監曲獄ハ各監獄所在地ニ於テ其管理スル囚人及ヒ假出獄免幽閉ノ者ノ犯罪ニ付キ司法警察ノ職務ヲ行フ
參照
○明治十五年第十六號布告
樺戸集治監ノ囚人假出獄免幽閉ノ者トモ罪ヲ犯シ輕罪以下ニ該

ル者ハ司獄官吏ニ於テ裁判シ治罪ノ手續モ便宜取計フヘシ

○明治十五年第四一號布告

空知集治監ノ囚人假出獄免幽罪ヲ犯シ輕罪以下ニ該ル者ハ司獄官吏ニ於テ裁判シ治罪ノ手續モ便宜取計フヘシ

○明治十八年第四十二號布告

釧路集治監ノ囚人假出獄免幽罪ヲ犯シ輕罪以下ニ該ル者ハ司獄官吏ニ於テ裁判シ治罪ノ手續モ便宜取計フヘシ

但重罪ハ根室重罪裁判所ノ管轄ニ屬ス

第十五條　小笠原出張東京府官吏ハ其島内ニ於テ司法警察ノ職務ヲ行フ

參照

○明治十四年第五十六號布告

小笠原島裁判所事務當分東京府出張所ニテ治安裁判所卽チ違警始審裁判所卽チ輕罪ノ權限ヲ以テ裁判セシメ民刑事控訴及重罪裁判ハ東京控訴裁判所ノ管轄ト相定明治十五年一月一日ヨリ施行候條此旨布告候事

但該島ニ於テ治罪ノ手續ハ適宜取扱フヘシ

第十六條　伊豆七島地役人ハ其管轄地内ニ於テ司法警察ノ職務ヲ行フ

參照

○明治十四年第五十七號布告

伊豆七島裁判事務當分該島吏ヘ民事ハ百圓以下及勸解並ニ刑事ハ違警罪ノ裁判ヲ委任シ民事百圓以上刑事輕罪以上ハ東京始審裁判所ノ管轄ト相定メ明治十

五年一月一日ヨリ施行候條此旨布告候事

但該島ニ於テ裁判治罪ノ手續ハ適宜取扱フヘシ

第十七條　清國朝鮮國駐在檢事ハ各其駐在地ニ於テ日本國人ノ犯罪ニ付キ司法警察ノ職務ヲ行フ

第十八條　商船ノ船長ハ商船內ノ犯罪ニ付キ明治十四年第六十五號布告ニ從ヒ司法警察ノ職務ヲ行フ

參照

○明治十四年第六十五號布告商船內犯罪取扱規則

第一條　何人タリトモ商船內ニ於テ重罪輕罪アルヿヲ認知シ又ハ重罪輕罪ニ因リ損害ヲ受ケタル者ハ船長ニ告訴告發ヲ爲スヿヲ得

第二條　船長告訴告發ヲ受タル時又ハ重罪輕罪ノ現行犯アルヿヲ知リタルトキハ其事件ニ付假ニ訊問檢証ノ處分ヲ爲シ且証憑及事實參考ト成ルヘキ事物ヲ集

取シ調書ヲ作ルヘシ但調書ヲ作事能ハサル時ハ第三條ニ記載シタル官吏ニ其申立ヲ爲スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ立會人二名以上アルヲ要ス

第三條　船長ハ証憑及ヒ事實參考ト爲ルヘキ事物ヲ取纏メ被告人ト共ニ該船碇泊又ハ着港ノ地ノ檢事又ハ司法警察官ニ引渡スヘシ

若シ外國ノ港埠ニ着シタル時ハ其地駐劄ノ領事ニ之ヲ引渡スヘシ

第十九條　司法警察官ノ管轄ハ犯罪ノ性質場所受ヒ被告人ノ身分ニ付キ制限アルヿナシ

第二十條　司法警察官他ノ管轄地內ニ於テ搜査ヲ爲ス可キ時ハ之ヲ其地ノ司法警察官ニ囑託スヘシ

第三章　司法警察官ノ職務

第二十一條　司法警察官ノ職務左ノ如シ

一犯罪ノ捜査

二現行犯ノ假豫審

第二十二條　司法警察官ハ服務時間外ト雖モ急速ヲ要スル事件アルトキハ成ル可ク其處分ヲ爲サヽル可ラス

第二十三條　司法警察官職務ヲ行フ場合ニ於テ其制服ヲ着用セサルトキハ司法警察官タルノ証票ヲ携帶スヘシ若シ其處分ヲ受クル者ノ請求アリタルトキハ之ヲ示スヘシ

第二十四條　司法警察官ハ專ラ奸惡ヲ摘發シ公害ヲ除クヿニ着眼スヘシ一概ニ犯罪ヲ檢擧スルヿノ多數ナルノミヲ以テ其職務ヲ盡スモノト爲ス可カラス

第二十五條　奸惡ノ徒ハ巧ニ法網ヲ脫スルヿヲ圖ルモノニシテ無智ノ細民知ラズシテ法律ニ觸ルヽノ比ニ非ラス司法警察官タル者宜シク其犯情ヲ看破スルヿニ注意ス可シ

第二十六條　司法警察官ハ捜査ヲ爲スニ付キ檢事ノ指揮ニ從フ可キハ勿論ナリト雖モ事毎ニ其指揮ヲ待ツ可キ者ニ非ス故ニ犯罪アルニ當テハ直チニ捜査ニ着手セサル可ラス

第二十七條　檢事ト司法警察官トハ職權ニ差等アリト雖モ其關係密着シテ事務ヲ料理ス可キモノナルニ因リ互ヒニ協和ヲ旨トス可シ

第二十八條　司法警察官ハ管轄内外ニ拘ハラス執務ノ便益ヲ圖ル爲メ平常互ニ氣脉ヲ通スヘシ

第二十九條　司法警察官被告人又ハ被害者ト親屬若クハ故舊ナルトキハ嫌疑ヲ避クル爲メ成ル可ク其處分ヲ他ノ官吏ニ讓ルヘシ

第三十條　司法警察官職務ヲ行フニ際シ必要トスル時ハ

警察署憲兵屯營ニ照會シテ巡査憲兵卒ヲ使用スルヿヲ得但事機緊急ナル時ハ直チニ之ヲ使用スルヿヲ得若シ事緊急重要ニ涉ル片ハ鎭臺又ハ營所分營ニ照會シテ兵力ヲ要求スルヿヲ得其要求書ニハ成ル可ク犯罪ノ性質被告人ノ員數所在地及ヒ其携帶スル兇器ノ種類等ヲ記載スヘシ

參照

○明治十四年太政官第八十二號達

第一條　裁判官檢察官及ヒ司法警察官治罪法ニ從ヒ檢証及ヒ物件差押其他職務ヲ行フニ當リ必要ナル時ハ警察署又ハ憲兵屯營ニ照會シテ巡査又ハ憲兵卒ヲ使用スルヿヲ得

但事機緊急ナル時ハ直チニ之ヲ使用スルヿヲ得

第三條　前條ノ場合ニ於テ事緊急重要ニ涉ル時ハ直チニ鎭臺又ハ分營ニ照會シテ兵力ヲ要求スルヿヲ得

第三十一條　兵力ヲ要求シタル司法警察官ハ直接ニ兵卒ヲ指揮スルヿヲ得スト雖モ處分ノ方法ニ付キ指揮官ニ協議スルヿヲ得

第三十二條　謀故殺放火强盜其他重罪輕罪ヲ分タス重要ナル事件アリタル時ハ司法警察官ハ速ニ其旨ヲ檢事ニ報告スヘシ

第三十三條　刑法第二篇第一章第二章及ヒ第三章第一節ノ犯罪アリタル時ハ司法警察官ハ速ニ檢事ニ報告シ檢事ハ之ヲ司法大臣ニ具狀ス可シ

第三十四條　勅奏任官華族帶勳有位者禁錮以上ノ刑ニ該ル可キ罪ヲ犯シタル片ハ司法警察官ハ速ニ其旨ヲ檢事ニ報告ス可シ

第三十五條　外國人重罪輕罪ヲ犯シ又ハ外國人ニ對シ重

罪輕罪ヲ犯シタル者アル時ハ檢事司法警察官ハ第三十三條ノ手續ヲナス可シ

第三十六條　外國公使館ニ關スル事件ニ付テハ明治七年太政官第百二十八號達ニ從ヒ處分ス可シ

參照

○明治七年太政官第百廿八號達司法警察規則附錄

外國公使及公使館屬員ノ事

第一條　外國公使ハ我國憲ヲ以テ羈縻スヘカラサル通義ナレハ是ヲ擴充スル時ハ其家屬並ニ公使官屬員書記髓員公使ノ僕隷書記官ノ家族及ヒ書記官及ヒ其ノ僕隷等總テ公使館ノ名籍ニアル者ヲ云フ家屋車馬迄モ同樣ナリト思量スヘシ

第二條　內國人公使館又ハ公使ノ書記官ニ傭ハレ公使館ノ名籍ニ在ル間タハ公使館ノ屬隷ト見做シ若シ事故アリテ逮捕セサルヲ得サルカ或ハ呼出シテ糺問セサルヲ得サル時ハ外務省ヲ歷テ公使館ヘ報知シ其唯諾ヲ待チテ後引出スヘシ尤其者ヲ處分スルハ公使ノ關係スルヿニアラス

第三條　內國人各公使館及書記官ニ傭ハレ中ハ其公使又ハ代理ヨリ其者ノ名籍ヲ外務省ヘ屆出外務省ハ其屆書ヲ速ニ司法警察官吏ヘ送達シ置ヘシ警察官吏ハ常ニ其姓名ヲ簿記シ置ヘシ若シ途中ニテ或ル人ヲ引留メ其名籍ヲ在ル處ヲ聞糺ス時公使館ニ傭ハレ中ト稱スル時其簿記ト校照シ愈相違ナキハ一旦公使館迄同道シ照會ヲ遂ケタル後其處分ヲ施スヘシ若其姓名簿記中ニ在ラサル者ニテモ其本人決シテ相違ナキ旨ヲ述ル時ハ公使館ヘ同道シ右ノ如ク處置スヘシ但シ重科ニテ捕縛セサルヲ得サル者ハ第六條ニ照シテ處分スヘシ

外國公使館ノ事

第四條　外國公使館内ヘハ事故アリテ館主ヨリ請求スル時ノ外決シテ立入ルヘカラス若シ重科ヲ犯シタル罪人ト見留タル者奔逃シテ門内ニ匿入セシ等毫髮ノ間モ猶豫ス可ラサル時ハ其把門者ニ告ケ其館主ノ許可ヲ受ケ後館内又ハ邸内ヲ探索ス可シ

第五條　右公使館書記官ノ住宅内ニ在ル内外屬員ハ勿論車馬家畜ノ末ニ至ル迄一切手ヲ觸ル可カラス若シ職務上止ムヲ得ス手ヲ降スヘキ事故アラハ是ヲ外務省ニ打合セ而シテ其處分ヲナスヘシ

外國公使屬員罪ヲ犯シ並ニ犯罪ノ内國人公使館ニ住居スル時ノ事

第六條　外國公使館ノ屬員ナル外國人殺傷或ハ剽盜放火强姦等目前ニ顯ハレタル罪ヲ公使館外ニテ現ニ行フヲ見及フカ或ハ現ニ見スト雖ヒ衆人ヨリ報告シ確証アリテ片時モ猶豫ナシ雖キ時ハ其人ヲ其場ニ引留メ置卽刻公使館ヘ報知ノ上同館ヘ引渡シ又外務省ヘ報知シ是ヲ公使館ニ引渡シ手續ヲ申ヘシ決シテ手鎖捕縛等ノ事アル可ラス或ハ屬員ノ内國人ハ引留置卽刻公使館ヘ報知シ改メテ彼レヨリ引渡シヲ受クルノ手順ヲ施シ又之ヲ外務省ヘ申ヘシ

第七條　犯罪ノ風聞アルカ或ハ他人ノ白狀ヨリ明了ニ其罪科ノ知レタル内國人現ニ公使館内ニ儲ハレテ公使館ニ住居スルトキハ其館外周圍ノ各路ヲ遮斷シ而後外務省ヘ報知シ同館ヘ照會ヲ乞館主ニ引渡シヲ要求シ其人ヲ受取テ后之レヲ捕縛ス可シ若シ館主之ヲ拒ムトキハ其旨ヲ猶外務省ヘ報知シテ其處分ヲ定ムヘシ

第三十七條　外國人ノ身体家宅物件ニ關スル處分ニ付テハ本則ヲ適用スヘ可ラス

但朝鮮國人及ヒ條約未濟國人ニ付テハ此限ニ在ラス

第二編　捜査權

第一章　捜査權ノ起因

第三十八條　捜査權ハ犯罪ニ先チ又ハ犯罪ニ後レテ生スルモノニ非ラス犯罪ト同時ニ生スルモノナルニ因リ其起因ヲ知ルニハ犯罪ノ成立不成立ヲ鑑別スルヲ必要トス

第三十九條　犯罪ノ成立不成立ハ容易ニ鑑別ス可キモノト否ラサルモノトアリ故ニ犯罪アリト思料ス可キ事件ニ付テハ勉メテ其取調ヲ爲ス可シ犯罪ノ成立ヲ確認ス可カラサルノ故ヲ以テ初メヨリ之ヲ忽カセニスルヲ得ス

第一節　犯罪成立

第四十條　犯罪成立ニ關スル一般ノ條件左ノ如シ

一　自由他ノ強制ヲ受ケス事ノ行否自己ノ意ニ隨フヲ云フ

二　辨別普通ノ知覺精神ヲ有シ事ノ是非ヲ識別スルヲ謂フ

三　故意法律規則ノ禁令アルヲ知ルヲ知ラサルトヲ分タス罪ト爲ル可キ事實ヲ知リテ之ヲ行ヒ若クハ行ハサルノ意アルヲ謂フ

第四十一條　前條ニ記載シタル條件ハ犯罪成立ニ必要ナリト雖トモ諸罰則違警罪及ヒ過失罪ニ附テハ法律ノ特例又ハ犯罪ノ性質ニ因リ條件ノ具備ヲ要セサルモノアリ

第四十二條　犯罪成立ニ關スル一般ノ條件ノ外各罪固有